5-2　通信制出身専修学校生ヒアリング調査　資料2

文部科学省委託事業
令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）
『通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業』

専門学校通信制出身者ヒアリング調査報告書

令和８年２月
学校法人ＹＩＣ学院

目　次

はじめに……1
1.　調査設計および実施方法……2
（1）　調査の背景……2
（2）　通信制高校について……2
（3）　調査設計……7
（4）　対象者について……12
2.　調査結果の整理と考察……14
（1）　通信制高校時代の経験……14
（2）　専門学校進学の経緯……21
（3）　専門学校での経験……30
（4）　専門学校に対する評価……42
（5）　今後の意向……48
3.　困難要因の分析……51
（1）　学習面……51
（2）　経済面……52
（3）　心理面……53
（4）　進学ルートによる困難の差……54
4.　支援の有効性と課題……54
（1）　困難要因と対応支援策の整理……54
（2）　支援の有効性と課題……55
5.　今後に向けての実践的提言……57
（1）　基礎学力の底上げとスキルアップの支援……57
（2）　心理的ハードルを下げる「伴走型」コミュニケーション支援……58
（3）　コミュニティの形成とキャリア支援……59
（4）　「通信制高校 × 専門学校」による連携強化……60
おわりに……62

はじめに

本調査は学校法人ＹＩＣ学院（以下、当法人と記す）が「専修学校による地域産業中核的人材養成事業（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校振興プログラム）」として文部科学省から委託を受けた「通信制高校連携型キャリア形成支援による地域密着人材育成モデルの構築事業」を進めるにあたり実施した調査研究の一つである。

地域においては産業を担う人材の空洞化や生活サービスの維持困難といった課題が顕在化する中で、その受け皿として地域に根差した教育機関に大きな役割が寄せられている。一方でこれまでにない新しい価値観や働き方が生まれる昨今、通信制高校など多様な背景を持つ若者のさらなる職業的自立とそのための支援も急務となっている。

このような状況から、35年にわたり専門学校の運営に携わる当法人はこの事実でその知見と資源を生かし、多様な若者に接点性の高い進学ルートとより充実した学びの機会を提供すること、地域社会に貢献する職業人材として育成することを目指すとともに、一地域に根ざした専修学校一つくりを推進することとした。

3か年にわたる事業の初年度にあたる令和７年度は「ニーズの把握と基盤調査」を活動の中心に据え、今後実施するカリキュラムの開発素案作成につなげるべく、関係者（高校や専門学校生、学校教員、地域企業等）の属性ごとに調査を行った。

本報告書はそのうち通信制高校出身の専門学校生を対象とした調査について、対象者を取り巻く社会的背景から調査の具体的手法、結果とその分析、次年度に向けての提言までを記している。本報告書は、その調査からの実践的な提言が今後実施される教育カリキュラムプログラムの設計に活用され、地域密着型人材育成モデル構築に寄与することを目的とし作成されるものである。

1.　調査設計および実施方法

（1）調査の背景

国立社会保障・人口問題研究所の調査によれば、日本の18歳人口は現在の約110万人から2040年には約75万人にまで減少するとの予測がある。特にその減少ペースが激しい地方圏においては地域産業の担い手不足、生活インフラの維持困難が深刻になると考えられ、早急な対策が求められる課題となっている。

このように若年人口が急減することで学齢期の児童・生徒の数も大幅に減少するとみられるが、近年、通信制の学校に在籍する高校生の数は年々増加している。当法人のある山口県においても７校の通信制高校が開設され、約6,320人の生徒が在籍している。この数は山口県内の全高校年の約18%に上る。「普通科と違い学習が専門的な学びをしたい」など多様な学びへのニーズが高まっており、それに対応した特色ある通信制高校が積極開設されるといった動きも見ている。

当法人の専門学校においても通信制高校からの入学希望は少なくなく、年々増加する傾向にある。これまで個々の状況や学生の希望に応じて柔軟に受け入れを行い、学びを支援してきたが、このような大きなニーズの存在と地域に根差した教育機関としての役割を踏まえ、より専門的で多様な学びの機会の提供と地域の実情に即した支援を強化する必要があるとの認識を強くしている。

そのような背景から、この事業で入学前から卒業後のキャリア定着、地域貢献までを見据えた"育成・伴走・定着"の一体型支援体制の構築を推進することとした。具体的には通信制高校との連携をと通した入学前からのキャリア教育、在学中の系統だてプログラム設計、ＡＩやＩＣＴを活用したデジタルリテラシー育成、地域企業との協働を通じた連携授業等を想定しており、専門学校の２年間の枠にとらわれない継続的な取り組みを目指している。

そこでまず当専門学校の学びの中心である学生について理解を深め、今後の支援やカリキュラム開発の方向性を探るため、当該学生等へのインタビュー調査を実施した。

（2）通信制高校について

今調査の対象者の出身校である通信制高校について、その概要や分類、結果考察時となる事項を把握すべく、事前の情報収集を行った。

ア．通信制高校の概要

通信制高校（正式名称：高等学校通信制課程）は昭和23年に制度化され、「教育機会の均等」を目的に整備されてきた。教室授業を中心とする全日制課程・定時制課程と異なり、通信手段を主体として生徒が自宅等で個別に自学自習する形態をとる。添削指導や面接指導（スクーリング）、試験等によって単位認定が行われ、学校が定めた要件を満たせば卒業となり、高校卒業資格が取得できる。

近年、学習時間や時期、方法等を自ら選択して自分のペースで学ぶことができる通信教育ならではの特長を生かし、オンライン授業や動画教材、タブレット端末等のデジタルメディアを活用した多様な学びを提供する学校が増加している。

また、通信制高校は近年、年度途中入学者の増加や生徒の若年化が進んでいる。文部科学省「学校基本調査」によれば、15歳・16歳の通信制高校在籍者数が平成26年度から令和6年度にかけて約2.3倍に増加している。年度途中入学者数も令和3年では26,220人となり、年度間入学者数のうち途中入学者が占める割合も30%前後で高まる傾向にある。このような状況において、自学自習の学習習慣を身に付けることが困難な傾向がある生徒も少なからず見られるという。従来想定していた、学ぶ意欲を強く持ちながらも就業のためにその機会が得られない、いわゆる働きながら学ぶ勤労青年を想定した生徒像からは大きく異なってきている。文部科学省も、通信制高校を単なる「卒業資格を得るための場所」ではなく、「一人ひとりの可能性を最大化する柔軟な学びのプラットフォーム」にしようとしており、その果たすべき役割は変化しつつある。

【通信制課程の年度途中入学者数】



	公立		私立		計	
	実数（人）	割合（%）	実数（人）	割合（%）	実数（人）	割合（%）
H17	1,444	2.5%	13,053	32.9%	14,395	24.4%
H18	527	3.0%	12,057	32.1%	13,184	23.1%
H19	1,510	8.2%	14,309	35.2%	15,819	26.8%
H20	1,914	9.9%	13,439	33.2%	15,353	25.5%
H21	432	2.4%	14,460	24.9%	14,892	22.1%
H22	2,318	11.8%	14,934	33.7%	17,252	27.2%
H23	920	5.0%	16,247	35.5%	17,160	27.3%
H24	1,902	11.4%	15,752	32.7%	17,654	27.2%
H25	1,700	10.7%	15,757	33.3%	17,457	27.2%
H26	2,081	14.4%	15,452	31.7%	17,533	27.3%
H27	2,172	13.7%	17,453	33.7%	19,625	29.9%
H28	1,634	13.0%	16,877	31.9%	18,511	28.1%
H29	1,941	14.4%	16,378	33.0%	18,319	30.0%
H30	2,207	16.7%	20,658	36.2%	22,865	31.5%
R1	1,945	13.8%	21,393	32.1%	23,338	28.9%
R2	1,840	12.6%	19,771	29.5%	21,611	26.7%
R3	2,349	17.0%	23,872	30.5%	26,221	28.7%

出典：文部科学省　令和6年8月30日　第10回高等学校教育の在り方ワーキンググループ　グループ4

【通信制課程の年齢別生徒数】



	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20～24歳	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
S60	19,282	16,839	15,725	14,020	5,377	14,466	10,662	21,700	11,197	2,564	812
H2	27,147	26,237	24,737	19,233	8,480	21,795	9,764	14,846	10,434	3,221	1,092
H7	21,117	22,202	25,894	12,144	9,894	28,830	12,653	8,525	8,399	3,386	1,139
H12	20,788	28,229	36,303	21,400	13,557	30,112	14,398	8,095	4,497	3,134	1,354
H17	18,714	28,852	39,870	22,819	14,092	33,143	10,962	8,510	3,030	2,292	1,234
H22	24,401	34,839	44,664	22,506	12,272	27,860	10,485	5,895	2,768	1,185	1,163
H27	27,088	38,022	49,106	17,927	9,816	22,443	7,335	4,995	1,573	492	596
R2	39,360	52,647	62,737	18,876	7,674	14,569	4,906	4,172	1,256	428	323

（人）

出典：高等学校通信教育の現状について　文部科学省初等中等教育局　参事官（高等学校担当）付　令和3年2月26日

イ．通信制高校の分類

（ア）学習形態による分類

通信制高校における学習形態は複数あり、学校によって異なっている。

①通信型

自宅でのレポート学習を中心とする。教科書や学習資料を用いて課題を作成し、郵送またはオンラインで提出する方式が一般的。レポート提出や単位認定試験により単位を修得する。スクーリング（対面での面接指導）は年間数日に限定されている。学習者の生活リズムに合わせて学習を進めることができ、時間的自由度が高いため、勤労や家業などとの両立が図りやすい。

②通学型

決められた頻度で学校に登校し、対面授業を通じて必要単位を修得する方式。週１日の軽い通学から、週５日通う全日制に近いコースまで幅が広い。専門コースを設ける私立通信制高校に多く見られる。対面型のため教員による直接指導が受けやすく、友人との関わりも形成されやすい。生活リズムを整えやすいという特徴もある。

③オンライン型

ＩＣＴを活用し、オンライン授業・ＷＥＢ教材・動画視聴などを主体とする学習形態。新型コロナウイルス感染症の影響以降、広域制私立高校を中心に急速に拡大している。オンライン授業や提出システムにより学習が完結する形式になっており、登校はスクーリング日など最低限に抑えられる。

④ハイブリッド型

上記①～③の学習形態を柔軟に組み合わせる方法。学習者のニーズや生活スタイルに合わせた幅広い学びを提供できる。特にオンライン授業の拡充により、全国どこからでも学習できる体制を整える広域制の通信制高校が増えている。

【学習形態による特徴の整理】

学習形態		学習方法	登校頻度・回数	主な特徴
通信型	自宅学習中心	紙教材・課題の郵送・郵送やオンラインで提出	年間数日～数回	・学習場所・時間の自由度が高い ・個々の状況に合わせて学習可能 ・自己管理が必要
通学型	学校に登校して対面授業	決められた時間で教室において授業を受ける	ほぼ毎日の通学（週5日コース）	・生徒同士の交流の機会が多い ・学校生活が送りやすい
オンライン型	自宅など学習中心	オンライン授業・WEB教材・動画視聴型 学習の多くがオンラインで完結	スクーリングのみ	・場所に縛られず学べる ・ライフスタイルに合わせた学習が可能 ・対面のつながりが少ない傾向
ハイブリッド型	通信、通学、オンラインの組み合わせ	複数の学習スタイルから本人に合った形で選択	コースにより異なる（月に1回、週に1回、週5日など）	・柔軟にコースに応じた選択可能 ・個別にサポートを受けやすい ・学校の選択肢が多い

（イ）運営主体による分類

大きく分けて公立と私立に分類できる。全国の在学生徒数は平成22年頃に私立が公立を上回り、令和２年に私立の生徒は公立の３倍弱となった。

①公立

一般的に公立は授業料が安く費用負担が少ない。カリキュラムは基礎重視かつシンプルなものが中心で、スクーリング（通学日）は月数回～週１回程度である学校が多い。在籍者の年齢層が幅広い（10代～大人まで）ことも特徴である。

②私立

入学や編入・転校の受け入れ時期、スクーリング、試験日等が複数日程から選択できるなど、スケジューリングに柔軟性のある学校が多い。普通科だけでなく福祉や美容、デザイン等の専門コースを設ける学校もある。教職員やカウンセラーによるサポートが手厚く、公立に比べ卒業率が高くなっている。

なお私立の通信制高校には、全国から入学可能な広域制と、入学地域が限定された狭域制がある。狭域制では地域の全日制私立高校が通信部を併設、広域制では各地に提携サポート校を開校、といった形式が多く、スクーリングの負担軽減が図られている。

【運営主体ごとの特徴】

区分		学習形態	特徴
公立		通学型 通信型	授業料が安く費用負担が少ない 基礎重視でシンプルなカリキュラム スクーリング頻度は月数回～週1回程度 在籍者の年齢層が広い（10代～社会人まで）
私立	狭域制	通学型 通信型	近隣地域で対面指導が受けられる 比較的少人数で柔軟なスケジューリング 地域密着型の進学・就職支援 入学可能な地域が限られる
	広域制	通学型 通信型 オンライン型 （複合型も多い）	全国から入学可能 多様な学習スタイルの選択、組み合わせが可能 専門コースが豊富 学習センターや提携サポート校等を活用 教職員やカウンセラーのサポートが手厚い

（3）調査設計

ア．調査名

専門学校通信制出身者ヒアリング調査

イ．実施時期

令和７年11月

ウ．目的

本調査は、専門学校に進学した通信制高校出身者を対象に、進学経路、動機、進学時に困難だった要素（経済的・学力的・心理的背景など）および有効だった支援についてヒアリングを行い、教育・支援施策の改善に資することを目的とする。

エ．対象者

通信制高校から当法人の専門学校に進学した学生　９名

（在校生８名、卒業生１名）

オ．手法

（ア）事前アンケート（ＷＥＢ）

インタビュー当日の質問項目をもとに作成したアンケート（記名式）を事前に対象者に案内。在校生８名、卒業生１名が実施。

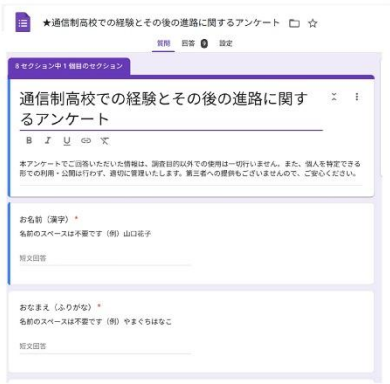
アンケートはＧｏｏｇｌｅフォームを用いて作成。

（イ）半構造化インタビュー（個別面談形式）

実施時間は１名30分程度とし、インタビュアー２名で担当。

在校生４名、卒業生１名を対面あるいはリモートで実施。

【アンケートフォームの一部】



カ．実施スケジュール

インタビューは下記のスケジュールで実施した。

・11月17日（月）　３名（在校生）

・11月19日（水）　１名（在校生）

・11月27日（木）　１名（卒業生）

在校生は授業終了後の時間に学校内で対面、卒業生はリモートで実施。

【対面インタビューの会場】





【リモートインタビューの様子】



キ．実施にあたっての留意点

（ア）対象者の選定にあたっては多様な意見や情報が収集できるよう、複数の学科・学年の学生を選定するようにした。併せて卒業生も１名加えることにより、卒業後の課題や支援ニーズも把握できるようにする。

（イ）インタビューは対象者の事前アンケートの回答をもとに行う。常に対象者主体の姿勢で共感的傾聴に努め、回答の背後にある文脈や理由を掘り下げる質問により、自由度の高い語りを引き出せるようにする。

（ウ）個別インタビューは緊張しやすく、対象者の心理的負担が大きい。対象者がインタビュアーを意識してうまく話せない、あるいは好感を得ようと良いことを言う、といった事象の発生も想定されるため、冒頭でインタビューの流れや回答の任意性などについて説明し、安心できる雰囲気を心掛ける。適度に軽い雑談などを入れるのも良い。またインタビュー中に対象者が心理的負担を感じる可能性のある質問については、無理に回答を求めないよう配慮する。

（エ）インタビュー実施の際は対象者の許可を得たうえで録音（もしくは録画）を行い、後日の分析に役立てる。録音（録画）機器は不具合等の可能性を考慮し、複数準備する。

（オ）このインタビューをより安全で有意義なものとするため、インタビュアーはキャリアコンサルタント有資格者が担当した。１名は当法人の職員、もう１名は外部専門家とし、学生の不安感を払拭し安心して話せる雰囲気をつくることに努めた。また、インタビューの安全性と調査の信頼性を確保できるようにした。

ク．調査項目

通信制高校出身の学生が専門学校へ進学した経路、専門学校での生活や学習、受けた支援の効果等について調査。「学習面」「経済面」「心理面」の三つの側面から各時点での経験を質問し、満足度や困難さについて測定できる設計とした。以下に項目の概要を記す。これらの項目で事前アンケートを行い、その回答をもとにインタビューで深掘りを行った。

【Part１】通信制高校について

・通信制高校選択理由

・高校での学習スタイル

・在学時の学校以外での活動

・通信制高校に入ってよかったこと／困難だと感じたこと

・全日制高校からの転校経験

【Part２】専門学校への進学について

・専門学校進学を考え始めた時期

・専門学校進学のきっかけ

・専門学校を選んだ理由

・進学先選択の決め手になったこと

・進学について相談した相手
・進学をあきらめそうになった経験

【Part３】専門学校進学時の困難要因（①学習面）
・入学前の学力に対する不安度
・特に不安だった分野
・入学後の授業の難易度
・教材や課題の難易度
・全日制高校出身者との学力差

【Part４】専門学校進学時の困難要因（②経済面）
・学費調達方法
・奨学金利用の満足度
・アルバイトと学業の両立
・在学中の学費、生活費に対する困難度
・入学後の予想外費用

【Part５】専門学校進学時の困難要因（③心理面）
・新しい環境への適応不安
・同級生との間で難しさを感じた経験
・通信制高校出身であることを話したか
・自信のなさや劣等感を感じた経験
・相談できる仲間の有無
・規則正しい生活ができているか

【Part６】専門学校の総合的な印象・有効だった支援
・入学前の期待と現実のギャップ
・在学中の総合的な満足度
・通信制高校での経験の活用
・入学前に有効だった支援
・入学後に効果的だった支援
・総合支援率（学習相談窓口）の個別相談利用経験

・入学前から卒業までにあればよかったと思う支援
・最も効果的だったと思う支援

【Part７】今後の意向等
・将来の進路意向／今後の就労希望
・地域への愛着意識の程度

ケ．分析の方針と内容

事前ＷＥＢアンケートによる定量データおよびインタビューによる定性データから、時系列・進学ルート別に分析を行う。併せて、過去から現在までに当法人で実施している支援について項目ごとにその有効性を整理する。これにより現状把握と課題抽出を行い、今後に向けての方向性の検討、特に専門学校入学前後の支援プログラムの強化設計への反映につなげたい。

（４）対象者について

調査対象者の属性は下表のとおりである。

インタビュー対象者は当法人の運営する専門学校のうち、ＹＩＣ情報ビジネス専門学校（以下、本校）の学生４名、および卒業生１名である。学科や年次、高校時代の経験や今後の意向等において様々な属性の人物で構成し、多様な意見や情報を得られるようにした。なお学生の所属学科は情報ビジネス科とホテルブライダル科の二つで、学年は１年次生３名と２年次生１名である。今後の進路意向も、県内就職や地域問わない就職、未定、と様々である。

卒業生は２年前に本校を卒業し、現在は県外の人材派遣・人材代行業に勤務しており、現職を継続する意向である。

またインタビュー対象者以外で事前アンケートのみ回答の学生（４名）についても、属性の偏りに配慮しバランスよく構成した。学生の所属学科はホテルブライダル科１名とメディアデザイン科３名、学年は１年次生３名と２年次生１名である。今後の進路については４名全員が卒業後の就職を希望している。

対象者の出身高校については、インタビュー有り、アンケートのみのどちらの形式においても「私立広域制」「私立狭域制」「公立」のすべての区分の出身者がいる構成となっている。

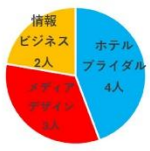
【対象者の属性一覧】

No	名前	性別	出身高校の類型	全日制からの転校経験	今後の進路意向	調査内容
1	Aさん	男性	私立(広域制)	なし	就職(県内/県外)	事前アンケート＋インタビュー
2	Bさん	男性	公立(狭域)	あり	未定	
3	Cさん	男性	公立(狭域)	なし	就職(県内/県外)	
4	Dさん	男性	私立広域制	あり	就職(県内) 家業承継予定	
5	Eさん	女性	私立狭域制	あり	現職を継続	
6	Fさん	男性	私立狭域制	なし	就職(県内/県外)	アンケートのみ
7	Gさん	女性	私立狭域制	あり	就職(県内)	
8	Hさん	男性	私立広域制	なし	就職(県内/県外)	
9	Iさん	男性	公立(狭域)	あり	就職(県内)	

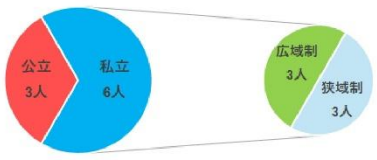
【学年】



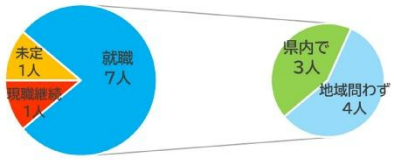
【学科】



【出身高校の類型】



【今後の進路意向】



2. 調査結果の整理と考察

事前アンケートおよびインタビュー、２種類の調査の実施により、定量・定性の両面で結果を得ることができた。ここではそれらの結果について、対象者のステージや要素ごとに整理し、考察する。

（１）通信制高校時代の経験

ア．通信制高校選択の理由

通信制高校の選択理由として「人に勧められた」「全日制に通うのが難しかった」がそれぞれ３件と最も多かった。体調不良や人間関係を要因とする不登校状態を経験したことにより毎日通学して学習する全日制のスタイルに不安を感じ、通信制を選択した人が多いことがうかがえる。こうした状況は中学生時代だけでなく高校進学後にも生じており、一度全日制高校に入学したものの在学中に同様の状態となり、通信制高校に転校、または同一高校内の通信課程へ転籍した学生は５人に上っていた。

アンケートで「人に勧められた」を選択した４人に、勧めた人について具体的に尋ねたところ、４人全員が「親」と回答した。心身の不調や環境の変化により学業継続に困難を感じていた生徒にとって、最も身近で信頼できる家族の情報提供や助言は進路選択の重要な要因になったとみられる。

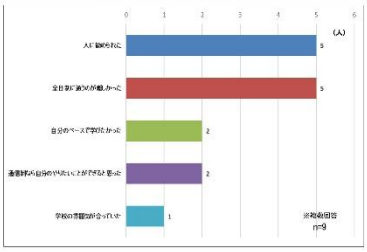
また、高校に通いつづけられるか不安を抱えながらも、いわゆる「中卒」で学業が終わってしまうことへのためらいを感じた学生も見られた。例えば中学時代に不登校を経験したが「中卒では将来的に不利になるのではないか」という思いから通信制で

高校卒業を目指すことを決断したと語った学生は、不安を抱えつつも何とか学びを続けられる方法を模索した結果、通信制高校への進学を選択したといえる。これらのことから、通信制高校は全日制高校のような「毎日・決まった時間」の登校が困難な生徒にとって、高校卒業資格を取得するための唯一無二の選択肢（セーフティネット）として機能している可能性が示唆される。

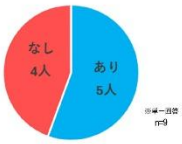
一方で、「自分のペースで学びたかった（2件）」「通信制なら自分のやりたいことができると思った（2件）」「学校の雰囲気が合っていた（1件）」など、自分の学習環境や進路を検討する中で通信制高校の特徴を好意的にとらえ、進んで選択している学生もみられた。例えばある学生は「中学時代からサッカーの社会人チームに所属しており、サッカーを中心とした生活を送るために授業時間の制約が少ない通信制を選択した」と語っている。学業以外の活動に集中したいという明確な目標を持つ学生にとっても、通信制高校は有力な選択肢の一つとなっていた。

以上のことから、通信制高校はその柔軟性を背景に、従来の全日制のような一斉形式の授業や集団的な学校生活への適応が困難だった生徒たちが過去の経験にとらわれることなく、自分の意思で目標を追求したり、生活を再構築したりすることを可能にする学習環境を提供していると考えられる。また、個々の特性や志向に応じた多様なニーズに対応する「個別最適な学び」の場としても選択されていることが明らかとなった。

【通信制高校を選択した理由】



【全日制からの転校経験】



イ．通信制高校での学習スタイル

通信制高校における主な学習方法としては、「スクーリング（対面授業）中心で学習（6件）」が最も多く、「教材や動画を使って自宅で学習（4件）」、「個別指導・マンツーマン授業などのサポートを利用（1件）」が挙げられた。

インタビューでは「週1回の日曜日のスクーリングを中心とし、それ以外の時間は自宅でレポート作成や動画視聴を行っていた」や、「授業時間が決まっておらず受講した分だけ単位が認められる仕組みであったため、自分で受講する教科を自由に選択できた」という声が聞かれた。このようにスクーリングと自宅学習を併用している学生が多く、学習方法の割合や組み合わせは、個々の状況や希望に応じて多様であった。

スクーリングの形式については「対面中心で授業を受けていたが、グループワークなどがほとんど無かったため、他の生徒と深く関わることなく通学学習ができた」という回答もみられた。このことから、スクーリングの形式により、対人関係での不安を抱える学生であっても、心理的負担を抑えながら参加できる学習環境が提供されていた可能性が示唆される。

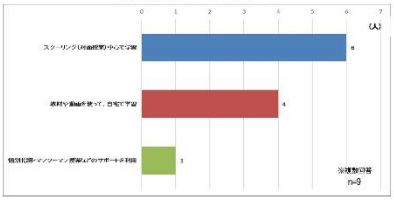
また、全日制課程と通信制課程を併設している高校の中には、全日制の生徒と合同で学校行事に参加することができるような仕組みを設けているところもあり、「修学旅行に参加した」という学生の声も聞かれた。このように、希望に応じて高校生活ならではの多様な行事や校内活動へ参加可能である点も、通信制高校の一つの特徴であることが分かる。

このように、多くの人が通信制高校の学習時間と学習内容の柔軟性を活かし、時間や場所にとらわれることなく、自身の目標や生活状況に合わせて学習を進めてきたこ

とがうかがえる。一方で、こうした通信制高校のメリットは、卒業に向けて自分自身で学習の計画の立案と実行を行い、管理する必要があることから、高い自己管理能力が求められるという側面を併せ持っている。この点については、困難を感じたという声も多くあった。例えば、「全日制高校は学校に行けば授業が用意されているが、通信制は自分で取り組まなければ学習が進まない」「科目によってレポートの回数が異なり、回数の多いものは締切直前になることもある」といった意見も挙げられ、通信制高校での学びには高い自律性が求められることが浮き彫りになった。

さらに、「単位制のため受ける教科を自由に選択できたことにより、興味のある分野に学習内容が偏ってしまった」という声もあり、通信制の自由度の高さは、場合によっては学習の幅を狭めてしまう可能性があるという側面も示唆される。

【通信制高校での学習スタイル】



ウ．学校以外で取り組んでいた活動

アンケート結果によると「アルバイトをしていた」との回答が最も多く、7件あった。これに「部活動やサークル活動」「ボランティアや地域活動」「習い事・スポーツ・創作活動」（各2件）が続いた。他に「資格取得・専門スキルの勉強（1件）や「家事・介護などを担っていた（1件）」という回答も見られた。今回の調査では、「学校以外での活動はしていない」という回答はなかった。

特に取り組み経験の多いアルバイトについては、インタビューで詳細を聴取した。例えばある学生は人間関係の構築がうまくいかなかった経験から対人不安を抱えていたが、コンビニエンスストアのアルバイトが周囲との関わりを持つきっかけとなり、

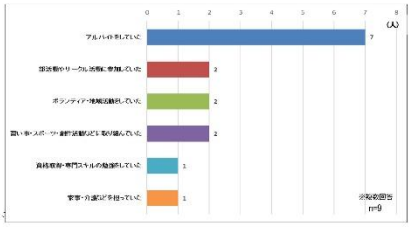
「その後もアルバイトを続けたことにより人との関わりへの不安が軽くなった」と語っている。また「通信制高校では人と喋らない生活になってしまい、そこから脱却するために飲食店のアルバイトを続けた」、「アルバイトによって決まった時間に出勤するようになり、生活のリズムが安定した」という声も聞かれた。これらのことから、アルバイト先は単なる収入源としてだけでなく、学校や家庭とも異なる「第3の居場所」として機能していたと考えられる。人間関係の経験を積む場として、社会性やコミュニケーション能力の向上に寄与していた点は、通信制高校に在籍する学生にとって重要な意味を持っていたといえる。

スポーツ活動では、学外チームでの活動だけでなく、学内の部活動に取り組んだ学生もいた。ある学生は「通信制高校に転校した際、全日制高校で行っていたスポーツの部活動がなかったため、学校に働きかけて部を設立し全国大会に出場した」という経験を語っている。

そのほかにも、パソコン関連の資格取得や地域のボランティア活動、家庭内で家事を担うなど、多様な活動を行った人もいた。複数の活動を同時に行っていた学生も4人に上り、多くの学生が学業と並行して学校外・学校内の活動に積極的に関わっていたことが分かる。

通信制高校における自由な時間の使い方は学生によって様々であるが、多くの学生が個々の目標や生活状況に応じて能動的な活動をすることで学校生活だけでは得ることができない経験や学びを獲得している実態が明らかになった。

【学校以外で取り組んでいた活動】



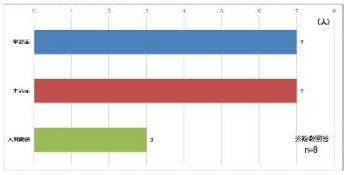
通信制高校に通って良かったと感じる点について、「学習面」「生活面」「人間関係」の三つの側面からどのように評価しているかを把握するため、アンケートで調査を行った。

その結果、「学習面」と「生活面」を挙げた回答が多く、それぞれ７件あった。学習面では「自分のペースで学べた」「理解しやすかった」「課題提出に柔軟性があった」などが評価され、生活面では「通学日数や時間の自由があった」「自分の時間を有効に使えた」という点が評価された。いずれも通信制高校の特徴を好意的に、メリットとしてとらえた評価である。複数の項目を選択した学生が６人に上り、またすべての項目を選択した人も２人おり、多くの学生が通信制高校に通って多方面で好意的に捉えている様子がうかがえる。

良かった点についてインタビューで具体的に尋ねたところ、「学業の傍らアルバイトをする中で対人への不安を乗り越えることができた」「サッカーをやり遂げるために、自分を律して学業と両立させた」「自分で部活動を立ち上げ大会に出場したことで、自分が変わらなければいけないという強い気持ちを持つことができた」といった話が聞かれ、アルバイトやボランティア、スポーツ等学業以外の活動で自分の目標を達成した経験が精神的な回復や自己成長につながっていることが読み取れる。また「修学旅行で宿泊先のホテルマンの仕事姿に感銘を受け、将来の夢としてホテルマンを考えるようになった」という学生のように、学校行事での経験を通して自分の新たな目標ややキャリア観の発見につながったケースも確認された。

これらのことから、通信制高校での学びや柔軟な学習環境を活かすことが個人の目標達成を可能にしたり、生活面においては心身の安定や回復、さらにはその後の進路や人生の指針を見いだす契機にもなっていることが明らかになった。

【通信制高校に通って「良かった」と感じる点】



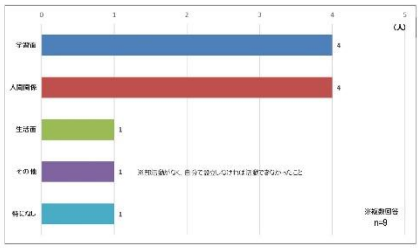
オ．通信制高校で困難を感じた点

アンケートでは「学習面」と「人間関係」が最も多く挙がり、それぞれ４件あった。次いで「生活面」「その他」「特になかった」がそれぞれ１件であった。

学習面について、インタビューでは「全日制と異なり、授業で先生から教えてもらう機会が少なく個人で勉強に取り組む必要があったため、学習している内容が正しいのか、学力的な面で不安があった」「勉強が苦手で中学時代から周りとの差を感じていたので、自発的に勉強することが不安」といった声も聞かれ、特に勉強内容に難しさを感じていた様子がうかがえる。そして複数の学生が先の「通信制高校で良かった点」においても「学習面」を挙げており、柔軟な対応が可能な通信制高校の学習スタイルは大きなメリットである一方で、自分で学習を管理する困難さがデメリットにもなりうることを表している。

通信制高校の柔軟性は、人間関係の構築面でも影響を及ぼしているようである。「クラスが決まっているわけではないため、人と喋らない生活が続いて本当にきつかった」「スクーリング等は自由登校なので、いつも学校や教室にいる人が違う。仲良くなっても次にいつ会えるかわからない」という状況があり、対人面での不安がそれほどない人にとっては、友達づくりなど継続的な人間関係を築く機会が制限され、孤独に感じることもあったようだ。

【通信制高校で困難を感じた点】



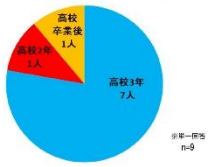
（２）専門学校進学の経緯

ア．専門学校への進学を考え始めた時期

アンケートでは７人が「高校３年生」と回答し、最も多くなった。以下、「高校２年」が１人、「高校卒業後」が１人となっており、高校卒業を目前に控えた最終学年で具体的に検討し始めるケースが多いことが分かった。

「高３になって進路をどうしようかとなった時に、通信で週１回しか学校に行っていないのに、そのまま会社に就職しても大丈夫だろうかと思った」「大学進学もいいなと思っていた」のように、自身の体調や学習ペース、卒業後の社会生活への不安などを考慮し、自分に合った環境を選択するため、進路決定のぎりぎりのタイミングまで検討している背景が見える。

【専門学校への進学を考え始めた時期】



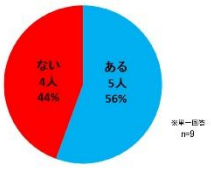
イ．進学をあきらめそうになった経験

アンケートでは９人のうち５人が「進学をあきらめそうになった経験がある」と回答しており、通信制高校からの進学に際しては多くの生徒が困難を感じていることがうかがえる。

あきらめそうになった理由としては「学力面」「体調不良」「人と関われるか心配」などが挙げられた。通信制高校での柔軟な学習・生活スタイルから新しい環境に踏み出すことへの不安によるものが中心となっていたと思われる。

インタビューではこうした不安に対して、さらに詳しい話を聞くことができた。例えば「とにかく勉強が苦手で心配だった」「精神疾患を患い、最初は高校にも行くつもりはなく中卒で働こうと思っていたので、将来も考えられなかった」「アルバイト以外で外に出て人と関わっていなかったため、この会社に就職しようと思っていた」などの声が聞かれた。通信制高校入学時に抱えていた不安要素が再び表面化し、次のステージに向かうに際にも困難として立ちはだかっている様子が浮かび上がった。そして、これらの困難を乗り越えて専門学校への進学を決断していたことも明らかになった。

【進学をあきらめそうになった経験】



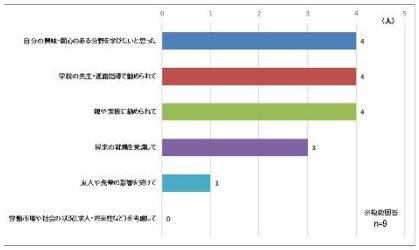
【理由】アンケートの自由記述（「ある」と回答した５人）

- 高校生の時は昼夜逆転しており、人とあまり関わらない生活を選びがちだったため
- 外に出て人と関わっていなかったため、新しい環境に行きたくなかったため
- 高校３年の頃休調を崩して通さられなかったため
- 学力
- 考えすぎて、面倒くさくなった

ウ．専門学校進学のきっかけ

専門学校への進学を考えるきっかけとなったこととして最も多かったものは「自分の興味・関心のある分野を学びたい」という自分の意思によるものが４件であった。次いで「学校の先生・進路指導の勧め」「親や家族の勧め」といった、身近な人からの勧めによるものがそれぞれ４件であった。ほかに「将来の就職を意識して（３件）」「友人や先輩の影響（１件）」があった。複数の項目を選択している回答者は４人で、本人の意欲に周囲の意向や助言が加わって、専門学校への興味を深めていることがうかがえる。

【専門学校に進学しようと思ったきっかけ】



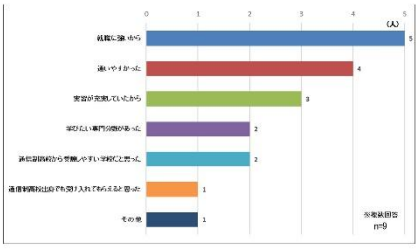
エ．専門学校を選んだ理由

様々な進学先がある中で専門学校を選んだ理由として最も多かったものは「就職に強いから」で５件の回答があった。次いで「通いやすかった（４件）」「実習が充実していたから（３件）」「学びたい専門分野があった（３件）」が続いた。ほかにも「通信制高校から受験しやすい学校だと思った」「通信制高校出身でも受け入れてもらえると思った」という回答がそれぞれ１件ずつあった。

インタビューで学生たちからは「彼を業希望で、ビジネスマナー全般を体系的に学べる点に魅力を感じて情報ビジネス科を選んだ」、「ブライダルだけでなく、企業の事務職などいろいろなところで生かせることを学べると考えてホテルブライダル科を選んだ」といったように、「就職に強い」だけでなく、自身のキャリアを見据え、希望する分野での具体的なスキルを身につけることを目指し、それが可能な専門学校への進学を希望した人が少なくないことがわかる。

また、「通いやすい」「通信制高校から受験しやすい」「通信制高校出身でも受け入れてもらえる」といった回答からは、自身の背景を受け入れてもらえるかどうかや、毎日自分で通学することに対する体力的・精神的負担なども考慮している様子がうかがえる。インタビューでは「通信制高校は週１回の登校だったので、一度専門学校に行って規則正しい生活習慣を作っておくべきだと考えた」「家から近くて通いやすい」といった話も聞かれ、専門学校は多様な不安を抱える学生にとって、安心して次のステージに進むことができる進学先として選択されていることがわかる。

【専門学校を選んだ理由】

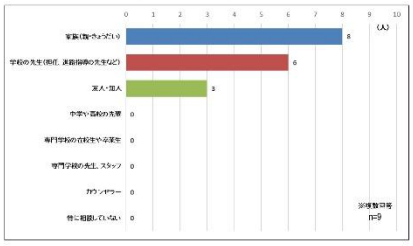


オ．専門学校進学を相談した相手

９人全員が、進学について誰かと相談しており、相談相手として最も多かったものは「家族（親・きょうだい）」で８人であった。次いで、「学校の先生（担任、進路指導の先生など）」が６人、「友人・知人」が３人と続いている。複数の相手に相談した人も７人おり、多くの学生が身近で信頼できる相手を持ち、助言を得ていることが分かった。

家族と学校の先生からの助言は特に大きな影響を与えたようだ。例えば「当初は就職を考えていたが、親から『専門学校に行って資格を持っておいた方がいい』と勧められて進学に傾いた」また「自分の性格（悪愛相談に乗るのが好きなど）を考慮して父親からホテルブライダル科を提案された」という学生のように、家族からは対話の中で進路の提案があったというケースが多い。学校の先生からは、「個人面談を行い、就職のことなどを詳しく教えてもらった」「Ｅｘｃｅｌの１級が取れるから行ってこい、と背中を押された」といった、進路や学習についての具体的な助言があったことで前進できた人も多い様子で、理解者である家族と専門的な助言者である先生の両方のサポートを得たことが奏功した可能性がある。

【進学についての相談相手】



カ．専門学校進学の決め手

高校生が当法人の専門学校へ進学することを決めたとき、その決め手となったものは何か、アンケートで質問した。「すべてを選択（複数回答）」「一番の決め手を一つ選択（単一回答）」の２種類の形式で質問を提示し、それぞれ回答してもらった。

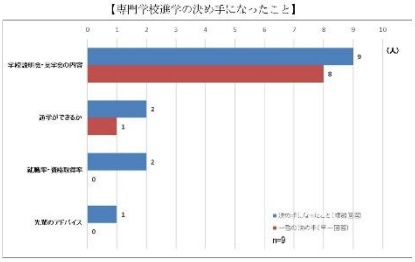
「学校説明会・見学会の内容」は９人全員が挙げており、うち８人の一番の決め手にもなっていた。次に多い「就職率・資格取得率」は複数回答で２人が選択しているものの、一番の決め手にはなっていない。

学校説明会・見学会について、インタビューでさらに質問を深めたところ、「オープンキャンパスで先輩から『この学校の面接は堅苦しくない』という話を聞いて安心した」「オープンキャンパスのウエディングドレス試着体験で先生が何度も『似合っている』と褒めてくれて、嬉を感じないこの先生なら良いと思った」といった具体的なエピソードを聞くことができた。当法人のオープンキャンパスでは体験授業や、在校生・教職員と話せる場を設けており、学校の雰囲気や在籍者の様子を自分で確かめることができる、一番の決め手を「通学ができるか」とした一人についても、複数回答式の質問では「説明会・見学会の内容」を選択しており、オープンキャンパスに参加して実際に通学できるかを確認したことで専門学校への進学を決めたとみられる。また、オープンキャンパスではなく個別説明会に参加した学生は、「説明会で現

在の担任の先生と面談をして、クラスが担任制で、困ったことがあってもすぐに対処してくれると聞いた。就職のことなどを詳しく教えてもらい、具体的な進路の道筋が見えた」と話していた。

このように、対象者は就職率・資格取得率等のデータや交通アクセスも含めた複数の情報から自身の進路を検討している。一方で実際にオープンキャンパス等に参加して自分の目で見て体験する機会を持つことで納得感を感じ、確信を得て進路決定に至っていることがわかる。特に在校生や教職員といった、学校生活の実情をよく知る教育活動の当事者と接することで不安が軽減され、「ここで学びたい」「受け入れてもらえている」という実感が進路決定の後押しとなっていると考えられる。

【専門学校進学の決め手になったこと】



（3）専門学校での経験

ア．学習面

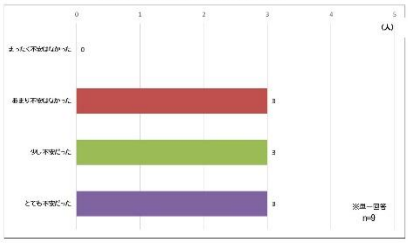
（ア）入学前の学力不安

アンケートによると、専門学校入学前に持っていた学力に対する不安について「とても不安だった」「少し不安だった」「あまり不安はなかった」がそれぞれ３人と分かれた。不安が「まったくなかった」と回答した人はおらず、程度の違いはあるものの、全員が学力面で何らかの不安を抱えていた。

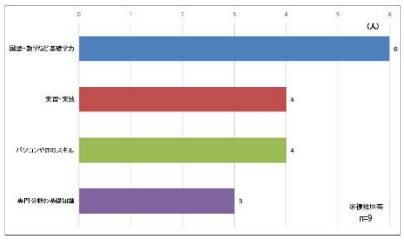
具体的に不安を感じた分野は「国語・数学などの基礎学力（以下、基礎学力と記す）」が6件と最も多く、次いで「実習・実技」「パソコンやＩＴのスキル」が4件、「専門分野の基礎知識（3件）」となった。「基礎学力」とそれ以外の項目（以下、「専門的知識技能」としてまとめる）に分けると、基礎学力のみを挙げた人が２人、基礎学力と専門的知識技能の両方で複数の項目を挙げた人が４人いた。このことから、専門学校で学ぶ専門的知識技能よりも高校までの基礎学力への不安が強い人や、専門的知識技能に加えて基礎学力にも不安を感じる人がいるとわかる。

また、「基礎学力」を挙げた６人のうち３人は、先の「通信制高校で困難を感じた点」の質問でも「学習面」を挙げていた。インタビューでは「小学生の時から算数も国語も大嫌いで苦手なので、不安だった」「通信制高校では自分の好きな教科を自由に決めて学んでいたので好きな方向に偏ってしまっており、自分の学力が全日制出身の人と比べて通用するか不安だった」との声が聞かれた。幼いころからの根深い苦手意識や、自由度の高い通信制高校と全日制高校との学習環境の差の懸念が、入学前の基礎学力に対する不安につながっていることがうかがえる。

【専門学校入学前の学力に対する不安】



【不安だった分野】



（イ）専門学校の授業や教材について

専門学校での授業についてもアンケートで質問をした。

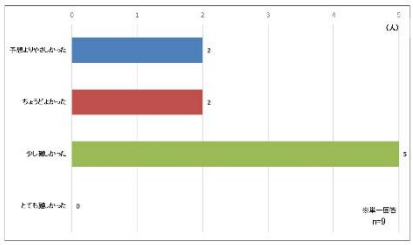
「授業内容の難易度」は、「少し難しかった」が５人、「ちょうどよかった」「予想よりやさしかった」がそれぞれ２人であった。また、「授業で使用する教材や課題の難易度」については「ちょうどよかった」「少し難しかった」がそれぞれ４人で、「予想よりやさしかった」が１人であった。授業内容、教材や課題のいずれにおいても「とても難しかった」とする回答は今回ゼロであった。

入学前、基礎学力に不安を感じていた学生は「授業で国語や数学、英語はあまり使うことがないので、ついていけている」、また、専門分野の基礎知識に不安を感じていた学生も「勉強が好きです。解けると面白いです」と語っている。ビジネス系やホテルブライダル系といった専門的な学科の授業は専門的な内容に特化しており、基礎科目で習得した知識を活用する場面があまりないためか、学生は一定の難しさを感じつつも、当初思っていたほどではないと受け止めている様子がうかがえる。

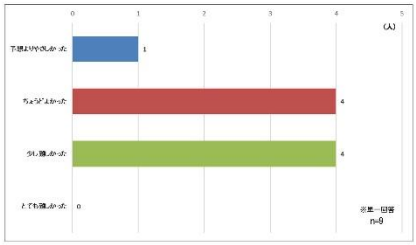
教材についてもそれほど難解であるとはとらえられていない。具体的には「授業の本題に入る前にクイズ形式の問題が提示される」「授業の中で、班ごとにカードゲームを作成する」など、既存の参考書や教科書といった教材だけでなく、多様なツールや方法を用いて授業が展開されることにより、学生はそれほど大きな不安を

感じることなく授業に参加できていると考えられる。

【授業の難易度】



【教材・課題の難易度】

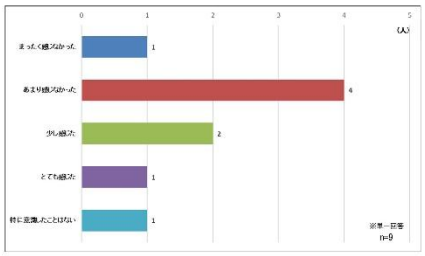


（ウ）全日制高校出身者との学力差

前述のとおり、入学前には「全日制高校の生徒と比べて自分は劣っているのではないか」という不安を抱いていたものの、実際に入学した後はそうした差をそれほど感じなかった様子がうかがえる。アンケート結果では半数以上の学生が「あまり感じなかった（４人）」または「まったく感じなかった（１人）」と回答しており、「特に意識しなかった」という人も１人いた。

「少し感じた」と回答した学生にインタビューで詳しく尋ねたところ、「通信制高校では自分のペースで学習していたので、専門学校における90分授業に当初はなかなか慣れることができなかった」との回答であった。また「とても感じた」と回答した学生はやはり、これまで抱えてきた「勉強への苦手意識」が影響し、現在もなかなか自信が持てず挑戦を控えてしまうことが多いという状況が見られた。これらのことから、入学による学習環境の大きな変化や、個人が抱えている意識の違いにより、学力差の受け止め方には差異が生じていると考えられる。

【全日制高校出身の人との学力差を感じたか】



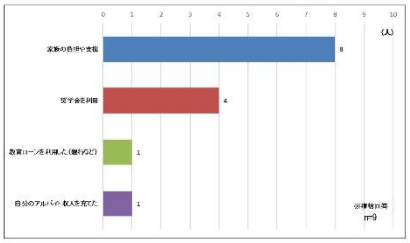
イ．経済面

（ア）学費負担

専門学校の学費の調達方法について見ると、アンケート回答では９人中８人が「家族の負担や支援で」と回答していた。家族の支援を受けず自身で負担している学生は１人であった。

あわせて、奨学金を利用している学生は４人（44%）、教育ローンを利用している学生は１人（11%）であった。これらは家族負担と併せて利用しているケースが多く、家族以外からの支援を受けて進学している学生が半数以上に上っている。

【専門学校の学費はどのように準備したか】

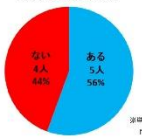


（イ）奨学金について

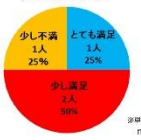
前述のとおり、奨学金は９人中４人が利用しており、自己負担（家族負担）による学費支出を補完する重要な手段となっている。奨学金利用者の満足度については「とても満足」と「少し満足」を合わせて75%と、比較的高い水準であった。

近年は返還義務のない給付型奨学金や学費減免制度などが拡充され、学生が過度に経済的な負担を負うことなく学業に専念できる環境が整いつつある。これらの制度は、学生にとっては安心して通学できる要素の一つとなっている。一方で、在学中の出席状況や成績が支給要件とされる制度もある。こうした条件は学生にとっては一定の負担感は伴うものの、「奨学金に成績も関わってくるし、もう欠席できない。それに学費を無駄にできないから、意地でも最後まで通ってやろう」と語る学生のように、自分を律して学習習慣を維持するための動機づけとして機能している側面もあると考えられる。

【奨学金の利用経験】



【奨学金の満足度】

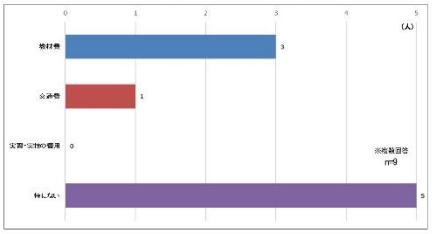


（ウ）経済的な困難の経験

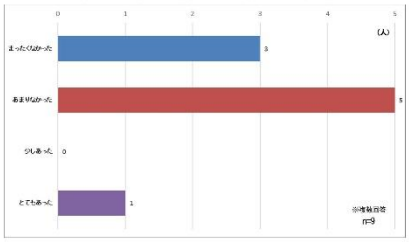
アンケート回答で「入学後の予想外の費用負担にあったか」と質問したところ、「予想外に高かった」出費として挙げられた出費は「教材費（３件）」「交通費（１件）」であった。専門的な知識を習得するためのテキストや資料代に加え、高校時に比べ通学日数が増加したことによる公共交通の利用料金が、当初の想定を上回っていたものと考えられる。一方で「特になし」という回答した学生も５人おり、過半数の人が事前の計画どおりに学費や生活費をやりくりできている様子がうかがえる。

また、専門学校在学中の学費や生活費に関する負担感について「まったくなかった（３件）」「あまりなかった（５件）」との回答が多くみられた。家族の支援や各種サポートの利用により、大多数の人が比較的安定した状況で専門学校での生活を送ることができていると考えられる。なお、在学中の学費や生活費について困難に感じた経験については「とてもあった」の回答をした学生が１人いたが、回答者が今回インタビュー対象者ではなかったため、具体的な状況については把握できていない。

【入学後、予想外にかかった費用】



【在学中の学費や生活費について困難に感じた経験】



（エ）アルバイト経験

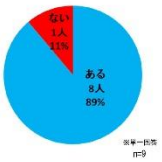
アンケート結果によると９人中８人にアルバイトの経験があり、経験者の75%が「問題なく学業と両立できている」と感じていた。

アルバイトを始めた時期は高校時代という学生が多く、そのまま同じ仕事を継続している者や、短期の仕事を複数経験している者など、働き方は様々である。

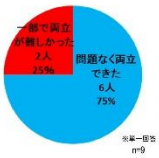
アルバイトを行う理由も様々であり、インタビューでは「高校時代、学校が週１回で時間に余裕があったため始めた。今はコミュニケーション能力を高めるために、昼間に働くアルバイトを始めた。将来のために役立ちそうな仕事を選んだ」「接客力を磨きたくて飲食業に就き、その後、体力を付けたくて清掃業に移った」などの話を聞くことができた。これらのことから、アルバイトと学業を両立させることは、安定した生活リズムを獲得し、人とのコミュニケーションの楽しさや、労働により給料を得ることの喜びを知ることにつながり、経済的な余裕と精神的な充実の両面で良い影響を与えていると考えられる。また、「アルバイトをして、マルチタスクができるようになった」という学生のように、アルバイトによる自分のスキルアップや適性の理解、将来のキャリアを考えるきっかけを得る、などの自己成長の機会にもなっている。

学費や生活費の経済的困難が比較的少ない学生にとっても、アルバイトは単なる収入確保にとどまらず、学校とは異なる多様な経験を得ることができる貴重な場となっていることがうかがえる。

【アルバイト経験】



【学業とアルバイトの両立】



ウ．心理面

（ア）新しい環境への不安

アンケート結果によると、専門学校入学時に新しい環境に入っていくことについて「とても不安があった」と回答した学生は４人、「少し不安があった」と回答し

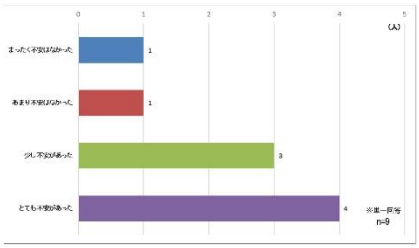
た学生は3人で、両者を合わせると77%に上った。このことから、多くの学生が入学時の環境変化への対応に不安を抱えていることが判明した。

不安の内容として、前述の学力面に関すること以外では「対人関係」「生活リズム」を挙げる者が多く、概ねこの2点に集約されているといえる。

対人関係に関しては、インタビューからは「通信制高校に行ったきっかけが人間関係の問題であったので、専門学校でもうまくやっていけるか不安があった」、「全日制高校出身の学生が多く、どう関われば良いかわからなかった」のように、過去に対人関係上の困難を経験し、通信制高校への転校を経験した学生ほど、対人関係に強い不安を感じている様子がうかがえる。

生活リズムについては「高校の時は週1回の通学で、登校時間も自由であったため、専門学校に毎日朝から通えるのか不安だった」という意見がみられた。決まった時間に行動する必要が発生するため、新たなリズムを構築することへの不安が生じていると考えられる。さらに「高校時代から始めていたアルバイトが続けてできるかも不安だった」と述べており、専門学校への入学による学習環境の変化が、学校外での生活環境や培ってきた対人関係にも影響を及ぼすのではないかとの懸念を生み、不安感を一層高める可能性があると思われる。

【専門学校入学で新しい環境に入ることへの不安】



(イ)不安や困難に対する気持ちの変化

専門学校入学時に抱いていた不安は、入学後どう変化したのだろうか。

前項（ア）で浮かび上がった不安の一つ、「対人関係」については、アンケートでは「専門学校の同級生との関係で難しさを感じた経験」は「とてもあった（3件）」「少しあった（1件）」と回答した学生が全体の約40%強であった。一方で、「あまりなかった（4件）」「まったくなかった（1件）」と回答した学生も半数以上を占めており、入学後の対人関係における不安や困難の感じ方は個人によって大きく異なっていることが分かる。

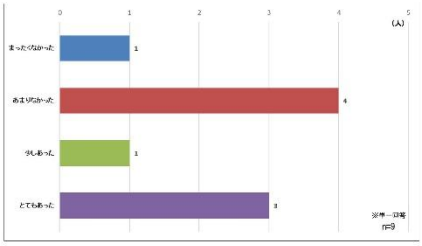
ただ「専門学校で相談できる仲間（友人）がいるか」という質問には9人中7人が「いる」と回答しており、入学当初に困難を感じていた人も何らかのきっかけを通じて打ち解けるきっかけをつかみ、友人関係を築くことができていることがうかがえる。

友人関係を深めたきっかけは「最寄り駅が同じだとわかった」「席が近かった」など、日常の些細な共通点や状況を知ったことから会話が生まれ、徐々に打ち解けていったケースが多くみられた。

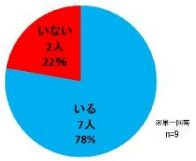
対人関係において特に強く困難を感じた経験を持つ者もいて、「『精神疾患を抱えていても普通に接してほしいと考える自分』と、『どう対応して良いかわからないクラスメイト』との間ですれ違いが生じて、当初はあまりなじめなかった」と語っている。しかし、自身の状況や傾向などをオープンにし、希望する接し方を周囲に伝える努力をしたことで、喧嘩もしながら徐々に同級生との距離を縮めることができたという。

さらに「16名の少人数クラスだったので対人関係に関する心理的不安は少なかった。実習やグループワークを通じて仲も深まった」という声もあり、対人関係の不安や難しさは学生個人の努力だけでなく、クラスの規模や授業形態、雰囲気や周囲のサポートといった要因も影響し軽減、解消されている可能性が示唆される。

【専門学校の同級生との関係で難しさを感じた経験】



【相談できる仲間（友人）】

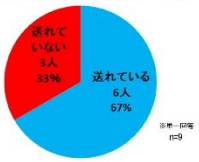


もう一つの不安要素であった「生活リズム」についても、アンケートで現在の生活について尋ねたところ、9人中6人（67%）が「規則正しい生活を送れている」と回答した。個人の状況によって差はあるが、専門学校での生活を通じて以前よりも規則正しいリズムで生活できるようになった人が少なくないことがうかがえる。

インタビューでは「休むと授業内容がわからなくなる。面白い授業があり、友達とも話したいので、毎日朝早く起きて学校に行っている」と学習への興味や友達の存在などが大きな原動力になっている様子が見られた。また、「昼間に活動し夜寝る生活を作るためにあえてアルバイトを入れた。」という者のように、学校外での活動も意図的に組み入れて新たな生活リズムを整えていったケースも確認された。

一方で、自由度の高い通信制高校時代の生活リズムから、専門学校の規則的な時間割へ移行することは容易ではなく、インタビューでは「自分のペースで勉強していた高校生活から、急に毎日90分授業に切り替わり、慣れるのに時間がかかった」「朝の支度をゆっくりしていると、電車に間に合わない、時間に追われると感じる。」といった声も聞かれた。生活リズムの変化に対して、一定の適応が進んでいる一方で、十分に適応できていないと感じる場面も存在していることが明らかとなった。

【今の生活で規則正しい生活が送れているか】



(ウ)通信制高校出身であることへの対応

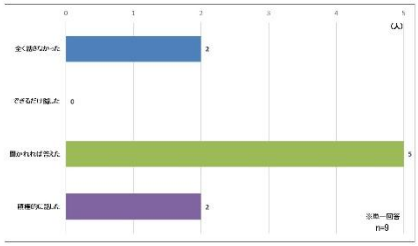
アンケートの「通信制高校出身であることを専門学校の同級生に伝えたか」という問いに対しては「聞かれれば答えた」が5件と最も多かった。積極的に話すというよりも、必要に応じて状況判断をしながら伝えるというスタンスを取る学生が主流であることがうかがえる。

一方で「積極的に話した」との回答が2件あるように、通信制高校出身であることを隠さず開示しているケースもみられた。ある学生は「全日制出身の学生から『自由な時間があって、好きなことができて、いいよな。羨ましい』ということをよく言われた」というが、本人は気には留めておらず、「もう隠さない」と語っている。前述のとおり精神疾患を持つ自分の状況や傾向をオープンにした者は、周囲に自分のことを理解してもらうために通信制高校出身である背景も含めて隠さず話す姿勢をとっており、その後のアルバイトや就職活動の面接においても特別な抵抗感なく話しているという。

その一方で「まったく話さなかった」という回答も2件あり、通信制高校出身であることを開示しない選択をしている学生が一定数存在することも明らかになった。インタビューの中では通信制高校出身であることに対してコンプレックスを抱き、あえて話したくないと感じる人がいることを理解しており、その選択を尊重する姿勢を示していた。

以上のことから、通信制高校出身であるという背景の開示の仕方は一様ではなく、個人の価値観や経験、周囲との関係性に応じて多様であることが分かる。自身の背景をどの程度、どのような形で伝えるかについても、学生一人ひとりが状況に応じて判断していると考えられる。

【通信制高校出身であることを同級生に伝えたか】



(ニ) 教員との関係

アンケートでは、専門学校教員との関係構築についても調査を行った。

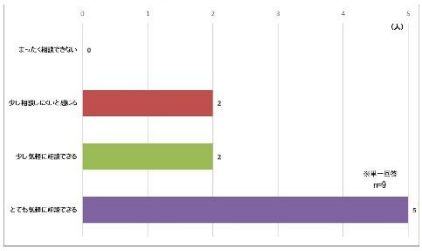
「専門学校の先生に気軽に相談できるか」との問いに対し、「とても気軽に相談できる」が5人、「少し気軽に相談できる」が2人となり、回答者の80%弱の学生が教員との関係を肯定的にとらえていることが分かった。

相談する相手としては主に担任教員であるが、キャリアサポート担当職員なども含めて相談しやすいと感じている学生の声もあり、「先生方がみんないい人で頼りになる。」という声も聞かれた。

相談のタイミングは「人間関係で困っていたとき、先生が話を聞いてくれた」「就職前の履歴書作成でとても力になってもらった」など、「困ったとき」が多い。相談内容は人間関係や学習面、就職活動に関するものなど、多岐にわたっている。「先生には何でも相談できる」、「日常のことも話したりする」という声も聞かれ、学生が教員に信頼を寄せ、日常的な会話が交わされる関係になっている様子もうかがえる。

このように、入学直後の不安定な時期に先生が寄り添い、耳を傾けてくれることが、学生の精神的な助けになり、心を開いて話せるほどの信頼関係の形成につながっていると考えられる。さらに、オープンキャンパスや個別説明会での説明や相談で信頼感を得たという声も複数あり、教員との信頼関係は入学時に限らず、入学検討段階から徐々に構築が始まっていたとも考えられる。

【専門学校の先生に気軽に相談できるか】



(ホ) 自己肯定感

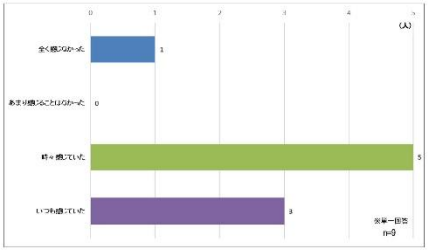
学生たちは専門学校の生活を通じて、自身をどのように捉えているのだろうか。アンケートで「自分に自信がない、または他の人と比べて劣っていると感じたことはあるか」と尋ねたところ、「いつも感じていた」が3人、「時々感じていた」が5人となり、90%近くの人が、他人と比較し劣等感や自己否定感を抱いた経験を有していることが分かった。

このような劣等感や自己否定感の背景は、インタビューでも繰り返し語られた「学力面でのつまずき」「対人関係上のトラブル」が主な要因になったと考えられる。多くの学生が高校入学以前の小学校、中学校時代からこのような経験を重ねており、それが通信制高校を選択する一因にもなっていた。

インタビューで高校時代の自身について「様子してみようという気持ちになれず、無難な選択をしてしまっていた」「何かに挑戦すること自体がすごく怖かった」と語られているように、自信の欠如が失敗への過度な不安を生み、その結果として挑戦を避ける行動が定着するという悪循環に陥っていた学生がいたことがうかがえる。

一方、現在の心境については「人と関われるようになったという点は、自分が成長したと感じている」「挑戦して、失敗して、後悔するのはいいと思えるようになった」といった前向きな変化を示す声を聞くことができた。「今でもちょっとまだ不安がある。」という慎重な姿勢を示す人もおり、個人差はみられるものの、専門学校での学習や人との関わりの経験を通して自己成長を感じたり、価値観を転換できたことにより自己肯定感を徐々に回復することができているのではないかと考えられる。

【自分に自信がない、または他の人と比べて劣っている、と感じたことがあるか】



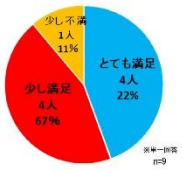
(4) 専門学校に対する評価

ア. 総合的な満足度

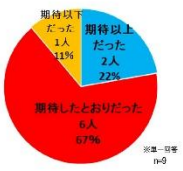
専門学校での学びに対する総合的な満足度については、アンケートの結果で9名中8名が「とても満足」もしくは「少し満足」と回答した。また、入学前の期待と比べた実際の学校生活への質問は「期待したとおりだった」が6人、「期待以上だった」が2人となり、多くの学生が自身の専門学校への進学と実際の生活を肯定的にとらえている様子がうかがえる。

具体的に満足している内容についてインタビューで尋ねたところ、「一般的に学ぶ機会が少ない専門的な知識を学べて新鮮である」「毎日友達と会って何気ない会話ができるのが良い」「相談できる先生も仲間もいて、楽しい学校生活が送れている」といった話を聞くことができた。高校時代と比べて生活環境が大きく変化したにもかかわらず、その変化を前向きな刺激として受け止め、専門学校での学びや人間関係を充実したものとして感じている学生が多いことが読み取れる。

【総合的な満足度】



【入学前の期待と比べて】



イ. 通信制高校での経験の活用

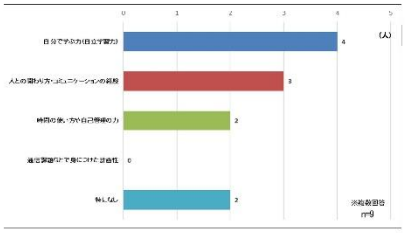
「専門学校で、通信制高校での経験が生かされたか」という問いに対しては、7人の学生が「生かされた」と回答した。生かされたと感じる場面について尋ねたところ、「自分で学ぶ力（自立学習力）」が4件、「人との関わり方・コミュニケーションの経験」が3件、「時間の使い方や自己管理の力」が2件となった。複数の項目を選択した人も2人いた。

経験が生かされた具体的なエピソードとして、インタビューでは「通信制高校では４年かけて卒業する仲間もいる中で、自分は同級生と一緒に必ず３年で卒業すると決め、計画的に単位を取得してきた。専門学校も『意地でも休まない』との思いで通学している。」「通信制高校は何でも自分で行動しなければ進むことができなかった。専門学校では、まず友達を作りたいと思い、入学してすぐ自分から話しかけたことでＬＩＮＥグループができた」などが挙がった。これらの語りから、自由度の高い通信制高校のカリキュラムの中で、学習や生活スケジュールを主体的に管理してきた経験から、専門学校での学習面および生活面での自己管理能力として生かされたことがうかがえる。

他にも「高校時代からコンビニエンスストアのアルバイトを始め、お客様への接客対応やマルチタスクを経験したことで自分の成長を感じる。その経験が現在の学科を選ぶきっかけになり、卒業後の目標である『ホテルマンになること』にもつながっている」という語りもあった。これは通信制高校に在学中に学業とアルバイトを両立しながら対人関係での不安を少しずつ克服した経験が、専門学校での学びへの関心興味を広げることや、将来の目標の発見に生かされた事例といえるだろう。

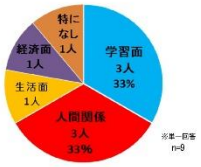
このように、学生たちは通信制高校で学業のみだけでなく多様な活動に取り組み、それらを両立させてきた。その中で培われた学習面や生活面における「自己管理能力」が専門学校での学習に生かされていると考えられる。こうした経験は将来のキャリア観の形成にもつながっている様子がうかがえる。

【専門学校で、通信制高校のどのような経験が生かされていると思うか】



「専門学校で最も効果的だったと思うサポートは」という質問に対する回答は「学習面のサポート」と「人間関係のサポート」が最も多く、それぞれ３件となった。「学習面」「人間関係」は前出の「高校時代に最も困難を感じたこと」の質問に対しても上位に挙がった項目であり、専門学校入学時に学生が抱く最大の不安でもあった。それらに対する評価が高いということは、専門学校としては学生一人ひとりの状況やニーズを的確にとらえ、必要な支援を提供できていたと考えられる。また、学生にとっては自身の不安な気持ちを受け止めてもらい、支援に支えられたという実感が、学校生活の満足感につながったと考えられる。

【専門学校のサポートで最も効果的だと思うもの】



(イ) 入学前のサポートに対する評価

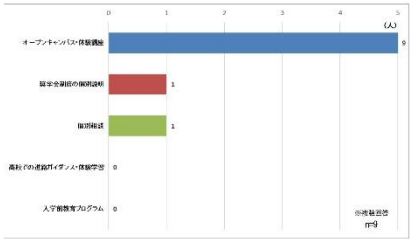
当法人では入学検討段階から入学決定後まで、様々な入学前サポートを行っている。それぞれのサポートについて、アンケートで「受けて良かったと思うもの」を選んでもらったところ、全員が「オープンキャンパス・体験講座」を挙げた。併せて、「奨学金制度の個別説明」「個別相談」をそれぞれ１人ずつが挙げた。前出の「専門学校進学の決め手になったもの」という質問でも同じく全員が「学校説明会・見学会の内容」を挙げており、インタビューでもオープンキャンパスでの体験が鮮明な記憶として語られている。また、個別相談はオープンキャンパスに参加できなかった人への対応に効果を発揮し、奨学金に内容を絞った個別説明も、利用を検討している人にとっては役に立つ支援となっている。

このように、進路検討段階で授業内容や雰囲気を事前に知れることや、不安につ

いて直接相談し解決できることが、入学前の生徒や保護者にとって進路決定の大きなポイントになっていることがわかる。

なおアンケートでは他に「高校での進路ガイダンス・体験学習」「入学前教育プログラム」の項目を設けていたが、選択した人はいなかった。

【入学前のサポートで良かったと思うもの】



(ウ) 入学後のサポートに対する評価

入学後、現在までに受けたサポートについても同様に、「受けて良かったと思うもの」を挙げてもらった。

最も多く挙がったのは「奨学金・経済的な支援（３件）」であった。前出の質問で「奨学金を利用している」と回答した４人のうち３人がこの項目を選択しており、学校に通い続けるための経済的支援が必要であることがわかる。これは学生本人だけでなく家族にとっても必要な支援といえるだろう。

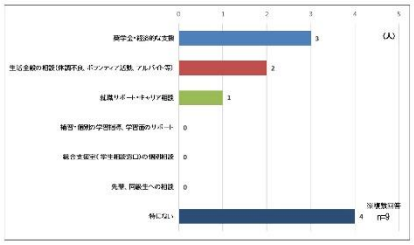
次に「生活全般の相談（２件）」が挙がった。「先生がマンツーマンで話を聞いてくれた。ちょっと外に出て話したりしたことが助かった」というようにサポートは教員による個別対応が中心で、その内容は多岐にわたっている。「勉強のことも私生活のことも、その学校の人間関係のことも全部先生に話していた」という者もいるほどである。なお学校内には「総合支援室」という学生相談窓口があるが、今

回のアンケートではその項目を挙げた人はおらず、総合支援室の相談利用した学生の声は拾えなかった。現状では、日常的に関わる教員のサポートが学生にとって最も大きな支えとなっていることが示唆される。

３番目に挙がったのが「就職サポート・キャリア相談（１件）」であった。今回のアンケート調査対象者は１年次生も多く、まだ就職に向けて具体的に活動を開始していない学生が多かったこともあって回答は少なかったと考えられる。しかし、「就職活動中のキャリアサポートの支援が役立った。との声も聞かれ、実際に就職活動を行っている学生にとっては有効な支援であることが示されている。

なお、学習面での支援として「補習・個別の学習指導、学習面のサポート」という項目を設けていたが、今回のアンケートで選択した人はいなかった。前出のアンケートで学習の難易度が入学前と比べて「予想どおり」あるいは「予想よりやさしい」と感じた人が多かったことからも、専門学校の学科の授業は、専門的な内容に特化している一方で、基礎科目で習得した知識を直接的に活用する場面は必ずしも多くない。そのため、学生は一定の難しさを感じつつも、当初想定していたほどの負担ではないと受け止めており、現時点では学習面での追加的な支援を必要とする状況が少なかった可能性がある。

【入学後のサポートで良かったと思うもの】



(エ)サポートに対する今後の希望

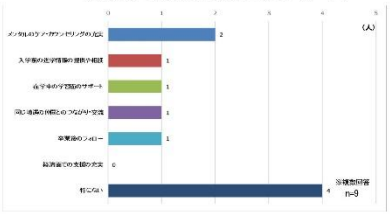
これまで受けてきた様々なサポートを踏まえて、「あれば良かった」「もっと充実していたらよかった」と感じるサポートがあるかについて尋ねた。

結果は「メンタルのケア・カウンセリングの充実」が２件と最も多く挙げられたほか、「入学前の進学情報の提供や相談」「在学中の学習面のサポート」「同じ境遇の仲間とのつながり・交流」「卒業後のフォロー」がそれぞれ１件ずつ挙げられた。回答は特定の項目に偏ることなく分散しており、入学前、在学中、卒業後のすべてのサポート項目が選択されていることから、学生のニーズが多様化していることや、現行の支援体制に一定の改善余地がある可能性が示唆される。

なお当法人では、在学中の学生一人ひとりが抱える悩みや困りごと課題に対応するために、カウンセラー、公認心理師、国家資格キャリアコンサルタント、看護師等の有資格者の相談員を設置した「総合支援室」を設けて個別相談を受け付けている。また、卒業後の就労や転職に関する相談は、キャリアサポート室で対応をしている。しかし、今回の調査では総合支援室の個別相談を利用した経験がある人がいなかったため利用実態が把握できなかった。キャリアサポート室や卒業後のフォローまで手掛けていることも、十分に認知されていない状況であった。

充実させてほしいと思うサポートが「特にない」の回答も４件に上っていることから、必要なサポートが存在していても、その内容や利用方法が学生に十分伝わっていないために、活用に至っていない可能性も考えられる。改めて、各種サポートの存在や役割について、学生への認知度を高めていく必要があるだろう。

【あれば良かった、もっと充実させてほしいサポート】



【インタビューより】

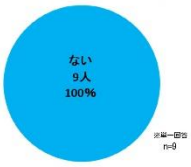
メンタルケア・カウンセリング
対面では話しづらい人もいるので、アキストのやり取りなどから始めるほうがハードルが下がるのではないか。（Ｅさん）

在学中の学習面のサポート
２分や３分の短い動画で、単元ごとに学べるセッションがあれば、家でも見ようと思う。（Ａさん）

同じ境遇の仲間とのつながり
通信制高校を卒業したメンバーで集まって話す機会があっても面白いかもしれない。（Ｃさん）

卒業後のフォロー
転職サポートなど、卒業後も相談できるところがあると安心できる。（Ｄさん）

【総合支援室の個別相談を利用した経験】



（５）今後の意向

ア．就職・就労に対する考え

専門学校卒業後（卒業生は現在の状況）の進路については、在学中の学生８人のうち７人が就職を希望していた。「これまで学校やアルバイトで得た経験を生かして、ホテルマンになりたい」「就職を目指して、マーケティングや簿記、表計算を頑張ろうと思っている」など、卒業後を見据えた目標を定めて学びに励んでいる様子がうかがえる。在学中（２年次生）ですでに就職先が決定している学生は「会社でトップを取れるよう頑張りたい」と語っており、また現在就労中の卒業生も「今は積極的に働いて、会社での昇進も目指している」と高い就業意欲を見せている。

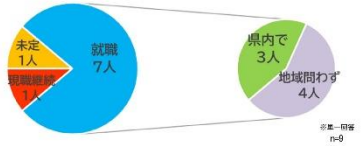
一方、進路が定まっていない学生からは、「当初は漠然と接客業を考えていたが、実習に参加したことでホテルの仕事に興味が出てきた」と語っており、専門学校での学びや実習経験を通して、徐々に自身の進路や将来像を具体化しつつある様子がうかがえた。

アンケートでは、働く場所（勤務地）に関する希望についても尋ねた。結果は「山口県内・県外どちらでも（地域は問わない）」との回答が４人と最も多く、いずれも１年次生であった。次いで「山口県内を希望」との回答が３人であり、その内訳は１年次生１人、２年次生２人であった。

このことから、１年次生ではまだ就職に対する具体的なイメージがまだ十分に形成されておらず、勤務地についても柔軟な姿勢を示す傾向がみられる。一方、２年次に進級し就職活動が本格化するにつれて、自身の生活や将来を見据えた現実的な選択として、勤務地の希望も明確化していく様子がうかがえる。実際、当初は地域を問わず就職を考えていても、最終的には山口県内での勤務を希望している学生が多く見受けられる。勤務地についてある学生は「県外に出てみたいとは思わない。ここ山口だからこそ安心できる」と語っており、見知らぬ土地での生活や就労することへの不安感が地元就職志向の一因となっている可能性がある。

一方で「最初は県外に出る予定はなかったが、『自分の人生は自分で決めないと』と興味のあった関西に転職した」と語った卒業生のように、当初は安心感のある地元での就労を望んでいても、社会人として経験を積み成長する中で、自己理解が深まり、価値観や行動が変化していくケースも見られた。

【今後の進路希望】



イ．地域への愛着意識と就労意向

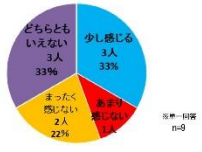
アンケートの最後に、地域への愛着について尋ねた。

「地域に愛着を感じるか」という質問に対しては「やや感じる」「どちらともいえない」との回答がそれぞれ３人となり、中立からやや肯定的な層が全体の３分の２を占めた。一方で、「とても強い愛着を感じる」という人がいなかったものの、「まったく感じない」と回答した人も２人おり、愛着の度合は一定のばらつきが見られた。

では、こうした地域への愛着の程度は、将来の就業先の選択にどのように関係するのか。前出の質問「今後の進路意向」への回答と併せてみると、「地域（山口県）への愛着はそれほどないが、県内での就職を希望している」学生や、反対に「山口県に一定の愛着はあるが、県外での就職も検討している」という回答がそれぞれ複数存在していた。

これまでのアンケートやインタビューの回答から、学生にとって「地域への愛着」とは「郷土愛」という感情的な結びつきよりも、「自分の知っている場所である」という認知的な安心感に基づく意味合いが大きいと推測される。「イベントに参加して、地域を歩くだけでも新しい発見があった」と語る学生のように、まだ学生自身が自分の住む地域について十分に理解・体験できていないことも、地域への愛着が強く形成されていない要因の一つであると考えられる。関西で就業中の卒業生は「ずっと山口は好きですし、帰りたいとも思っています」と語っており、地域を離れて初めて故郷への思いに気づくようなケースもあった。今回、調査回答者の半数以上は１年次生であり、今後本格的な就職活動を進める中で勤務地に対する希望や地域への意識が変化する可能性はあるが、現状では専門学校生のような若年層にとって、生まれ育った地域や現在居住している地域に対する思い入れやこだわりは必ずしも強くなく、就職先の選択にも決定的な要因にはなっていない様子がうかがえる。

【地域への愛着をどの程度感じるか】



【地域への愛着度合と希望する勤務地の関係】

名前	地域への愛着度合	勤務地の希望
Eさん	少し愛着を感じる	山口県外　※地域を経験
Cさん	少し愛着を感じる	地域問わず
Fさん	少し愛着を感じる	地域問わず
Aさん	どちらともいえない	地域問わず
Hさん	どちらともいえない	地域問わず
Dさん	どちらともいえない	山口県内　※結構柔軟に考
Gさん	あまり愛着を感じない	山口県内
Iさん	全く愛着を感じない	山口県内
Bさん	全く愛着を感じない	就職するか未定

3. 困難要因の分析

本章では事前アンケートおよびインタビューの結果を基に、専門学校入学前から在学中に当事者が感じた困難とその要因を明らかにする。

（1）学習面

ア．入学前

入学前には調査対象全員が何らかの学力不安を抱えており、特に「国語・数学などの基礎学力」に対する不安（67%）が最も高かった。これは勉強に対する中学校時代からの苦手意識や、自由度の高い通信制高校での学習と全日制高校出身者との学習環境の差に対する懸念に起因していると考えられる。

イ．在学中

専門学校の学びは特定の分野に特化していることもあり、入学時に懸念していた「基礎科目の知識不足」は、在学中において大きな障壁になりにくく、学習する上で不便を感じる人が少ない傾向にある。興味関心のある科目の選択できるや、多様な学習ツールの活用した授業に意欲的に取り組めることから、困難は軽減されると考えられる。一方で、通信制時代の自由な学習スタイルに慣れていた学生にとって、入学当初は「1コマ90分の授業」や毎日の登校といった時間的拘束への対応が課題となる場合がある。

また、多くの人が通信制高校で培った「自立的な学習力」や「自己管理能力」を専門学校での計画的な単位取得や授業出席に生かしており、学業とアルバイトを両立させるなどしている。アルバイトは学習している専門分野に関する知識・技能習得や、将来のキャリア選択を考える上での手がかりとなる場合もある。学校内外での学びとの相乗効果もあり、全日制高校出身者との学力差に対する不安は次第に薄れ、学習・学力面での困難度合はさらに低下していると考えられる。

（2）経済面

ア．入学前

専門学校の学費はほとんどの学生が「家族の負担や支援（89%）」で賄われており、表面的には経済的困難の程度は低いように見える。しかし、奨学金を利用する学生も半数近くにおり、家族の自己負担と併せて他の資金調達方法を必要とする家庭が少なくないとみられる。このような家庭にとっては、困難があっても利用可能な奨学金制度があることが経済的負担の軽減につながっていると考えられる。その結果、就職ではなく進学という進路選択が可能となり、決して安価とは言えない専門学校も進路の選択肢に含めることができている可能性がある。

イ．在学中

学費以外で定期的に必要になる費用のうち、「教材費」や「交通費」が想定より高く感じている学生が一定数存在する（約30%）。しかしながら、これらの負担が原因となって、在学継続が困難になるほどの深刻な経済的困難に至っているケースはなく、全体としては大きな問題にはなっていないといえる。

奨学金については、利用している学生自身にとって直接的な経済的困難が生じるわけではないものの、家族の経済状況への配慮や将来的な返済負担の不安といった点から、間接的な困難要因となっている可能性がある。一方で奨学金の継続条件である出席率や成績の維持が、「自分を律して登校し続ける原動力」として機能している側面も確認された。このことから、奨学金は経済的支援にとどまらず、学習意欲や心理的安定の維持にも一定の影響を及ぼしていると考えられる。

（3）心理面

ア．入学前

通信制高校からの進学を具体的に検討し始める時期は「高校3年生」が最も多く（78%）、多くの生徒は卒業直前のタイミングで進路選択に動き出している。中には、より早い時期から大学進学や就職と併せて検討している生徒もいるが、全体としては検討開始時期が遅い傾向にある。その背景には社会適応に対して大きな不安を抱え、新しい環境に踏み出すことへの心理的な躊躇があると考えられる。

進路検討段階で進学をあきらめそうになった経験を持つ人は55%に上っており、この段階ですでに強い心理的困難を抱えていることがうかがえる。特に不安として多く挙げられたものは「対人関係」と「生活リズムの変化」であった。過去の人間関係の問題や不登校の経験から自分のペースで学ぶことができる通信制高校を選択している学生も少なくなく、専門学校進学の際は学校の規則正しいスケジュールへの対応や全日制高校出身者との人間関係の構築が円滑に進げるかなどの懸念が大きい。さらに、入学が決定した後であっても、実際に新しい環境に身を置いてからしばらくの間は、不安感が継続する傾向がみられた。このことから、心理的困難は進路検討段階から入学後初期にかけて連続的に存在していると考えられる。

イ．在学中

入学時には、対象者の80%近くが新しい環境への適応に不安を感じており、入学前から継続する心理的困難がみられる。特に対人関係不安については、40%の対象者が「難しさを感じた経験がある」と回答しており、在学初期における大きな課題であることがわかる。

通信制高校出身であることは「聞かれれば答えるが、自分から積極的に話すことはない」というスタンスの学生が多い。これは、通信制高校を選択するに至った背景として、人間関係不振や不登校などの過去の苦い経験を想起させることや、新しい環境への適応不安、学力に対する不安を自ら開示することへの抵抗感が影響していると考えられる。

一方で、入学後およそ半年経過すると78%が「相談できる友達ができた」と回答しており、対人関係に関する不安は徐々に軽減されている。

また、もう一つの不安要素であった生活リズムについても、67%が「規則正しい生活を送れるようになった」としており、在学期間の経過とともに心理的困難も入学後ゆっくりと軽減されていくといえる。

しかしながら、90%近くの学生が「他人と比較して自分は劣っていると感じている」と回答しており、自己肯定感の低さは在学中も継続している。友人や教員との関わりや学校外での活動を通じて良好な信頼関係を築き、徐々に自信を取り戻していく学生もいるものの、自己肯定感の回復には時間を要し、その過程には個人差もある。そのため、在学中に心理的困難が完全に解消されるケースは少ないといえる。

（4）進学ルートによる困難の差

対象者が通信制高校に入学した進学ルートは「中学校卒業後すぐ通信制高校に入学」と、「中学卒業後に全日制高校入学、その後通信制に転校」の二つのルートである。しかし、本調査においてはルートの違いによる困難の質や程度に顕著な差は認められなかった。転校経験者については、主に対人面や生活面で全日制高校での学生生活に困難を感じて通信制高校への転校を決めているケースが多かった。一方で、当初から通信制高校を選択した学生についても抱えている困難の内容は類似しており、困難の種類に大きな差はみられなかった。また困難の程度についても進学ルートによる明確な違いは見出せず、個々の経験や性格、置かれた環境などによる個人差の方が大きいと考えられる。

4. 支援の有効性と課題

これまで当法人では、入学前から在学中、卒業に至る様々で生徒・学生やその家族に対する各種サポートを実施してきた。本章では、これらの支援が前章で整理した困難要因に対してどのように作用したのか検証する。あわせて、支援の有効性と今後への課題、新たな支援ニーズについて考察する。

（1）困難要因と対応支援策の整理

まずは、前章の分析で明らかになった各ステージにおける困難要因と、当法人が実施している支援策を整理する。困難要因については、「入学前」「入学当初」「在学中から卒業まで」のステージごとに整理し記号化することで、ステージ間の比較ができるようにした。一方、支援策については「入学前支援」と「入学後支援」と時期で分類した。これにより、どの支援がどの段階の困難に対応しているのか、また支援と困難要因との関係性をより明確に捉えることを目的とする。

【ステージ別・分野別　困難度合の推移】　（調査をもとに作成）

時期	学習面	経済面	心理面	支援策
入学前	◎	○	◎	オープンキャンパス 個別説明会 奨学金の個別説明 入学前プログラム 高校での連絡ガイダンス・体験
入学当初	○	△	◎	補習・個別の学習指導 奨学金・経済的な支援 生活全般の相談 就職サポート・キャリア相談 総合支援室での対応 ※学生相談室 ?
在学中から卒業まで	△	△	○	

※困難度の程度を表す。◎：強い困難　○：ある程度の困難　△：あまりの困難は感じない

入学前の段階は環境変化に対する不安からすべての面で困難が強く表れている。中でも学習面・心理面における困難度合が高い傾向がみられる。経済面については家庭の状況による影響で、困難の程度には個人差がある。

入学後、授業が始まり専門的な学びにふれることで、学習面の困難が徐々に軽減されていく。また、経済面は多くの場合、入学前の段階である程度解消されていることが多い。在学中に最も困難が大きく、長く続くのは心理面である。特に入学後から学校生活に慣れるまでに強く表れ、その後も在学中の短時間では解消されるものではないことが明らかになった。

これまで当法人では、個々の事情に対応した個別相談などを中心とした支援を多く実施してきた。また、多数の参加者を対象としたオープンキャンパスなどのイベントにおいても、参加者一人ひとりが抱える背景や不安に配慮し柔軟な対応に努めてきた。しかしながら、本調査ではこれらの支援に対する評価は一様ではなく、一定のばらつきが見られた。

（2）支援の有効性と課題

ア．入学前

最も評価が高い支援はオープンキャンパスで、学習面・心理面・進路選択に関わるほぼすべての困難に対応している。実際に学校を訪問して授業を体験し、不安や疑問

の個別相談ができることが「ここならやれそう」という安心感につながって、進路検討段階での困難を乗り越える大きな転機となっている。

オープンキャンパスとは別に実施している個別説明会も同様に、教職員と直接話せる点などが評価されており、進学に対する不安の軽減につながっている。奨学金制度に関する個別説明は、家族の経済的負担への不安を和らげ、専門学校への進学を後押しする重要な支援となっている。

一方、「高校での連絡ガイダンス・体験」や「入学前プログラム」は今回のアンケート・ヒアリング調査では評価されていなかった。アンケートでは「あればよかったと思う支援」として「入学前の進学情報の提供や相談」が挙がっており、これらの取り組みが実施されていることを高等学校の教職員や学生・保護者へ十分周知できていない可能性がある。通信制高校に対してもオープンキャンパスより早い段階で情報や体験機会の提供を積極的に行うことで、困難を抱える生徒の進路選択の支援につなげることが求められる。また、入学前プログラムについても通信制高校の生徒向けに内容や位置づけを再検討し、入学決定から実際の入学までの不安な期間に提供するプログラムとして充実させることで入学前の学習面および心理面の困難を軽減できる余地があると考えられる。

イ．入学後

入学後から在学中にかけての支援の中で、最も評価が高かったのは経済的困難に対応する「奨学金・経済的な支援」であった（3件）。入学前に支給決定した奨学金の手続きだけでなく、入学後の利用相談や申し込みにも対応しており、在学中に経済状況が変化した場合の困難解消にも役立っている。

在学中の最大の困難要因である心理面での支援は、「生活全般の相談」や「就職サポート・キャリア相談」が評価されている。健康状態に関することからボランティア・アルバイト等の校外活動、就職まで、学生のあらゆる相談に親身に対応してもらえるとの声があり、心理的困難の解消に大きく貢献している。一方で、こうした支援は主に担任教員による個別対応に依存しており、学生・教員それぞれの状況や困難の内容によりばらつきが生じている。状況に応じて各分野の専門家に支援を求めることもできるが、実際の相談窓口は担当教員となることが多い。

当法人では学生が直接申し込むことでカウンセラーとの相談が可能な「総合支援室（学生相談窓口）」を設置しているが、今回の調査ではその利用実態を把握することはできなかった。身近な教員の対応で十分に問題が解決され、専門家に相談するに至

ってない可能性も考えられる。一方で、メンタルケアやカウンセリングの充実を求める声も挙がっており、困難が生じた際に学生が相談できる体制が整備されている点については、評価できる。

学習面の支援としては現在、「補習・個別指導サポート」を行っているが、アンケートで評価は得られていない。これは入学後に専門学校の学習の難易度が当初の予想ほど高くないと学生が認識し、支援を必要とせず自律的に学習へ取り組めているためと考えられる。また、教員が授業に多様なツールを活用し取り組みやすい工夫をしていることも困難軽減につながっている。

一方、アンケートでは入学後に受けて良かったサポートを「特にない」とした人が最も多かった。例えば、今回の調査ではキャリアサポート率で卒業後のフォローまで手掛けていることも、すべての学生に十分に認知されていない状況がみられた。必要なサポートが存在していても、その内容や利用方法が学生に十分伝わっていないために、活用に至っていない可能性も考えられる。あらためて、各種サポートの存在や役割について、学生への認知度を高めていく必要があるだろう。

5. 今後に向けての実践的提言

ここまでの調査と分析を通して、通信制高校出身の専門学校生が抱える困難の実態と、現行の支援策に対する評価を明らかにし、課題を導出した。今後、より多様で複合的な困難を抱える通信制高校生出身者たちが、次の学びの場として地域の専門学校を選択し、キャリア観や職業意識を醸成しながら自立していくために、どのような支援施策が必要となるだろうか。

本章では、地域密着型人材育成モデルの構築に向けて、これまでの調査結果を踏まえた上で、入学前から卒業後までを通した支援の方向性および具体的な支援内容について、実践的な提言を行う。

（1）柔軟な学びの設計とスキルアップの支援

通信制高校の自由度の高い生活リズムから専門学校の規則的なスケジュールへの適応は、入学前後の学生にとって大きな心理的・生活上の負担となっている。苦労しながら徐々に適応していく学生も多くいるが、この生活上の負担を少しでも軽減できるような学習方法を提供し、より多くの高校生が入学を前向きに検討し、さらに入学後も安心して学びを進められる学校になることが必要である。具体的な方策を以下に挙げる。

ア．柔軟な履修・通学モデルの導入

単位制を用いた「授業や通学回数を学生自身で選択できるプログラム」を導入し、通信制高校の時に培われたような柔軟性のある学習スタイルをとれるようにする。急激な生活リズムの変化を避けることで、段階的な適応が可能になる。オンライン受講も併用して取り入れることで、通学に伴う心理的負担や対人関係に対する不安の軽減を図ることもできる。

イ．デジタル教材を活用した学習定着支援

学習に対する苦手意識や学習習慣の定着に不安を抱える学生への入学後の支援として、自身のペースで短時間での学習に取り組めるＹｏｕＴｕｂｅ等の動画コンテンツ・デジタル教材の提供も有効である。ＬＭＳ（学習管理システム）と連携させることで、教分でも取り組んだ学習経験が可視化され、積み重ねによりスキルアップを実感することにより、自己肯定感と学習意欲の向上と困難解消につなげることが期待される。

（2）心理的ハードルを下げる「伴走型」コミュニケーション支援

通信制高校出身の学生の多くは、進学前後に強い対人不安や将来への不確実性を抱えている。調査からも、進学をあきらめかけた経験や、学力面・体調面・人間関係への不安が進学時の大きな心理的障壁となっていることが明らかになった。一方で、現存の相談窓口はすべての学生に十分認知されているとは言い難く、教員個人の対応に依存した支援体制には、負担の集中や対応のばらつきが生じている可能性がある。

これらの課題を踏まえ、入学前から卒業後まで切れ目なく学生に寄り添い、心理的ハードルを下げながら段階的な自立を支援する「伴走型」のコミュニケーション支援体制の構築が求められる。

ア．入学前から利用可能な相談・連絡プラットフォームの整備

入学前の段階から、専門学校と学生が継続的につながることができるオンライン相談・連絡ツールを導入する。進学に対する不安や生活面の相談などを気軽に発信できる環境を整えることで、入学前の心理的負担の軽減と早期の不安解消を図る。

イ．チャットベース相談の活用

「対面では相談しづらいが、文章であれば相談しやすい」という学生の声を踏まえ、チャットやメッセージ機能を活用したＡＩ等を用いた相談体制を構築する。これにより、時間や場所を問わず、学生が気軽に相談できる環境の整備が可能となる。また、相談内容を些細な悩みや不安も早期に拾い上げることができ、深刻化の防止につながる。

ウ．担任から専門家への多層的対応体制

通信制高校出身の学生が抱える心理的困難は、進学直後の不安から在学中の人間関係・学業・進路に関する悩みまで多岐にわたり、その深刻度や支援ニーズも個々に異なる。こうした多様な状況に対応するためには、担任だけによる単一の相談窓口による対応ではなく、サポート教員の配置や困難の程度や内容に応じて総合支援室による看護師、カウンセラー等の専門職による支援を段階的に提供できる多層的な支援体制の構築が必要となる。本体制は、在学中に限らず卒業後も　定期間利用可能とすることで、就職後や転職時に再び高まりやすい不安への対応を可能とする。

（3）コミュニティの形成とキャリア支援

インタビュー調査において、通信制高校出身者同士で交流できる機会を求める声が複数確認された。同じ背景や困難を経験してきた仲間の存在を知り、気持ちや情報を共有できる場を持つことは、孤立感の軽減や心理的安全性の確保に有効であると考えられる。

ア．交流によるつながりづくり

通信制高校出身の在校生を対象とした交流機会を意図的に設け、共通の経験を前提とした安心感のあるコミュニティ形成を図ることが有効である。

また、対面での交流に不安を感じる学生への配慮として、オンライン交流会やメッセージアプリ等を併用し、参加形態を柔軟に選択できる仕組みとすることが望ましい。これにより、心理的ハードルを下げ、無理のない形で人とのつながりを持つことが可能となる。

さらに、こうした交流の場に卒業生にも参加してもらうことで、在校生が身近なロールモデルと出会い、自身の将来像やキャリア形成について具体的なイメージを持つ機会となることが期待される。通信制高校出身という共通点を持つ先輩の経験談は、進路選択や就職に対する不安の軽減に寄与するとともに、「自分にもできる」という自己効力感の醸成につながる。

イ．体験的な学びを通じた社会との関わり

従前から実施している地域イベントやボランティア活動に加え、若者の関心が高い分野の企業・団体と連携した体験型の取り組みを展開することも有効である。実際の現場での活動を通じて社会との接点を持つことで、自身の役割や成長を実感しやすくなり、その満足感や達成感が自己肯定感の向上につながると考えられる。

ウ．校外活動を通じた居場所づくり

地元企業等でのアルバイトについても、学校・家庭以外の「第３の居場所」として機能する可能性が高い。単なる収入確保にとどまらず、社会性や職労意識の形成、仕事理解を高めるキャリア教育の機会として位置づけ、学校としても情報提供やマッチング等の側面支援を行うことで、地域に根差した人材育成と定着支援の強化が期待できる。

（4）「通信制高校 × 専門学校」による連携施策

通信制高校に在籍する生徒の中には、学力面・心理面・生活面に不安を抱え、卒業後の進路選択に際して大きなハードルを感じている者が少なくない。本調査においても、専門学校進学を検討する段階で「進学をあきらめかけた経験」を持つ生徒が多数確認されており、次の学びの場へ円滑に移行するための継続的な支援体制の必要性が示唆された。こうした課題に対応するためには、通信制高校と専門学校が個別に支援を行うのではなく、進学前から卒業後までを見据えた連携体制を構築し、切れ目のない支援を提供することが重要である。具体的には、通信制高校在学中から専門学校の教職員が関与する「進学準備型連携プログラム」を実施することが考えられる。

ア．日常の学びの場における連携

通信制高校のスクーリングの登校時を活用した専門学校による出前授業やオンライン体験授業、専門学校に進学した卒業生との少人数制の座談会や進路相談等を通じて、専門的な学びや学校生活の実態を事前に知る機会を提供することで、「いきなり進学する場所」ではなく、「少しずつ慣われる」、「顔の見える学びの場」にすることで進学に対する心理的ハードルの低減を図る。

また、通信制高校の進路指導担当教員と専門学校の生活支援担当者が定期的に情報共有を行い、生徒一人ひとりの状況や支援ニーズを踏まえた進路支援を行う体制を整える。これにより、生徒の不安やつまずきを早期に把握し、進学後を見据えた支援の引き継ぎが可能となる。

イ．より参加しやすいイベントの開催

さらに、専門学校のオープンキャンパスや体験学習について、通信制高校生向けに配慮した実施方法「通信制高校生だけのオープンキャンパス（少人数制、個別対応、オンライン併用等）」を取り入れることで、対人不安や生活リズムへの不安を抱える生徒でも参加しやすい環境を整える。

ウ．継続的な連携体制

専門学校在学中および卒業後においても、通信制高校との連携を活かし、卒業生の進路状況や支援ニーズに関する情報をフィードバックすることで、両校が連携して若年者支援の質を高めていく循環型の仕組みを構築することが望ましい。

これらの連携施策を通じて、通信制高校生が安心して次の学びのステージへ進み、地域に根差した専門学校でキャリア観・職業意識を育みながら自立していくことが期待される。通信制高校と専門学校の連携は、進路選択の多様化に対応するだけでなく、地域における若年者の学びと就労を支える持続可能な人材育成モデルの中核を担う取り組みとなる。

おわりに

本調査では、通信制高校出身の専門学校生を対象に、高校在学時から専門学校進学、在学中、さらには卒業後を見据えた経験や課題、支援ニーズについて、アンケートおよびインタビューを通じて把握した。

調査対象者は自学自習を基本とする通信制高校での学びを通じて「自立学習力」や「自己管理能力」といった専門学校や社会で生かせる貴重な強みを育んでいる一方、小学校・中学校時代での経験に起因する低い自己肯定感の中で環境変化への強い懸念を抱えながら専門学校に入学し、その適応過程で特有の心理的・学習的ハードルに直面していることが明らかになった。

インタビューでは家族や友人、学校の教職員といった身近な人物との経験が多く語られ、対人不安を抱える若者にとっても、進学の意思決定や学びの継続など困難な場面では人との関わりが重要な役割を果たしていることが浮き彫りになった。

近年、ＡＩやＩＣＴ技術の普及により学びの選択肢は広がり、多様な背景を持つ若者が学べる環境も整備されつつある。しかし困難な場面は依然として存在しており、「人による支援」は継続的に求められる。今後こうした最新技術を活用したがら、当法人が築いてきた人的支援のノウハウやネットワークも大切にした「地域の温度が感じられる新しい人材育成の形」を目指していくことが必要であることを、本調査で改めて認識した。

最後に、本調査の趣旨に賛同し自らの貴重な経験を語ってくださった学生および卒業生の皆様に深く感謝の意を申し上げる。調査で得られた知見は少数の調査対象者によるものであり、今後さらなる検証や実践を通じて発展させていく必要があるが、本調査が通信制高校出身の若者の理解を深め、次年度以降のカリキュラム開発や支援プログラムの具体化、さらには地域に根差した人材育成の推進に寄与する一助となればさいわいである。

資料編

文部科学省委託事業
令和７年度「専修学校による地域産業Ｉ技術人材育成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための専修学校版ＤＸコグソム）
通信制高校連携集客キャリア形成支援による地域産業人材育成モデルの構築事業

通信制出身専修学校生
ヒアリング調査報告書

学校法人ＹＩＣ学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町２番24号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます

事前アンケート　質問と回答　回答者９名

※複数回答可の質問は割合の合計が100%を超えています

【Part１】通信制高校について

1-1. 通信制高校を選択した理由をおしえてください。（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
全日制での学習が難しかった	5	56%
人に勧められた	5	56%
自分のペースで学びたかった	2	22%
通信制なら自分のやりたいことができると思った	2	22%
学校の雰囲気が合っていた	1	11%
家庭や仕事の事情があった	0	0%

1-2. 通信制高校での学習スタイルをおしえてください。（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
スクーリング（対面授業）中心で学習	6	67%
教材や動画を使って、自宅で学習	4	44%
個別指導・マンツーマン授業などのサポートを利用	1	11%
サポート校・学習センターを利用	0	0%
オンライン授業・ライブ配信授業を受けた	0	0%
専門分野（IT・デザイン等）の実習・実技授業を受けた	0	0%

1-3. 通信制高校に通っていた当時、学校以外で取り組んでいた活動を教えてください。（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
アルバイトをしていた	7	78%
ボランティア・地域活動をしていた	2	22%
習い事・スポーツ・創作活動などに取り組んでいた	2	22%
部活動やサークル活動に参加していた	2	22%
家事・介護などを担っていた	1	11%
資格取得・専門スキルの勉強をしていた	1	11%
学校以外の活動は特にしていなかった	0	0%

1-4. 通信制高校に通って「良かった」と感じた点を教えてください。（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
学習面（例：自分のペースで学べた、理解しやすかった、履修面に柔軟性があった）	1	33%
生活面（例：通学日数や時間の自由があった、自分の時間を多く持てた）	1	33%
人間関係（例：先生が一緒にサポートしてくれた、友人との関係がうまくいった）	3	33%

1-5. 通信制高校で「困難だった」と感じたのは、どのような面ですか？（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
人間関係（例：友人をつくる機会が少なかった、先生や学校との関わりが少なかった）	4	44%
学習面（例：勉強の内容が難しかった、授業の理解が大変）	4	44%
生活面（例：通学、時間の管理が難しかった、生活リズムを整えるのが大変）	1	11%
特にない	1	11%
その他	1	11%

※「その他」の詳細（自由回答）
・部活動が存在してなかったため、部活を作って活動するまでに少し時間がかかった

1-6. 全日制高校からの転校経験はありますか？

項目	回答数	割合（%）
ある	5	56%
ない（最初から通信制高校を選択）	4	44%

※転校の理由（自由回答：転校経験ある5名）
・うつ病
・体調不良
・精神疾患を持ち、全１年の登校に通うのが難しくなった
・同学生の頃から対人関係に苦手意識があり休みがちだったのもあり、高校でもクラスへ馴染めず
不登校になってしまったので、入学して１ヶ月ほどで高校にあった通信制へ転入した
・通っていた全日制の校風が合わず、通い続けるのが困難になった

【Part2】専門学校への進学について

2-1. 専門学校への進学を考え始めた時期はいつ頃ですか？

項目	回答数	割合（%）
高校３年	7	78%
高校２年	1	11%
高校卒業後	1	11%

2-2. 専門学校に進学しようと思ったきっかけを教えてください。（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
学校の先生・進路指導で勧められて	4	44%
自分の興味・関心のある分野を学びたいと思ったから	4	44%
親や家族に勧められて	4	44%
将来の就職を意識して	3	33%
友人や先輩の影響を受けたから	1	11%
労働市場や社会の状況（求人・将来性など）を考慮したから	0	0%

2-3. 専門学校を選んだ理由は何ですか？（複数回答可）

項目	回答数	割合（%）
就職に強いから	5	56%
通いやすかった	4	44%
実習が充実していたから	3	33%
学びたい専門分野があった	2	22%
通信制高校から受験しやすい学校だと思った	2	22%
通信制高校出身でも受け入れてもらえると思った	1	11%
大学より費用が安い	0	0%
年齢や経歴を問わない環境だと思った	0	0%
その他	1	11%

※「その他」の詳細（自由回答）
・大学に行ってから1年間も勉強できる気がしなかったから

2-4-1. 専門学校進学の際、決め手になったことを教えてください。（複数回答可）

項目	回答数	割合（%）
学校説明会・見学会の内容	9	100%
通学ができるか	2	22%
就職率・資格取得率	2	22%
先輩のアドバイス	1	11%
口コミ、インターネットの評価	0	0%
学費・奨学金制度	0	0%
通信制高校出身者への理解・配慮がある	0	0%

2-4-2. 上記の質問でお答えいただいた回答の中で、専門学校進学の際「最も決め手」になったことを一つ教えてください。

項目	回答数	割合（%）
学校説明会・見学会の内容	7	78%
通学ができるか	1	11%
先輩のアドバイス	1	11%
就職率・資格取得率	0	0%

2-5. 専門学校への進学について、相談した人はいますか？　（複数回答可）

項目	回答数	割合（%）
家族（親・きょうだい）	8	89%
学校の先生（担任、進路指導の先生など）	6	67%
友人・知人	3	33%
中学や高校の先輩	0	0%
専門学校の今校生や卒業生	0	0%
専門学校の先生、スタッフ	0	0%
カウンセラー（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）	0	0%
特に相談していない（自分で決めた）	0	0%

2-6. 進路を考える中で、進学をあきらめそうになった経験はありますか？

項目	回答数	割合（%）
ある	5	56%
ない	4	44%

※あきらめそうになった理由（自由回答：あきらめそうになった経験がある5名）
・学力
・高校3年の団体戦を前にして辞めたくなかったため
・高校生の時は昼夜逆転しており、人とあまり関わらない生活を選びがちだったため
・アルバイト以外で外に出て人と関わっていなかったため、新しい環境に行きたくなかった
・考えすぎて、前例見くなったから

【Part3】専門学校進学時の困難要因（①学習面）

3-1. 専門学校に入学する前、学力に不安はありましたか？

項目	回答数	割合（%）
とても不安だった	3	33%
少し不安だった	3	33%
あまり不安はなかった	3	33%

3-2. 学習で不安だった分野は何ですか？（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
国語・数学など基礎学力	6	67%
パソコンやITのスキル	4	44%
実習・実技	4	44%
専門分野の基礎知識	3	33%
不安はなかった	0	0%

3-3. 専門学校に入学して、授業の難易度はいかがでしたか？

項目	回答数	割合（%）
少し難しかった	5	56%
ちょうどよかった	2	22%
予想よりやさしかった	2	22%
とても難しかった	0	0%

3-4. 専門学校で使用する教材や課題の難易度はいかがでしたか？

項目	回答数	割合（%）
少し難しかった	4	44%
ちょうどよかった	4	44%
予想よりやさしかった	1	11%
とても難しかった	0	0%

3-5. 専門学校に入ってから、全日制高校出身の人と学力の面で違いを感じることはありましたか？

項目	回答数	割合（%）
あまり感じなかった	4	44%
少し感じた	2	22%
まったく感じなかった	1	11%
とても感じた	1	11%
特に意識したことはない	1	11%

【Part4】専門学校進学時の困難要因（②経済面）

4-1. 専門学校の学費は、どのように準備しましたか？　（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
家族の負担や支援	8	89%
奨学金を利用	4	44%
教育ローンを利用した（銀行など）	1	11%
自分のアルバイト収入を充てた	1	11%
その他の借り入れや支援を利用した	0	0%

4-2. 奨学金を利用された方は、その満足度についておしえてください。

項目	回答数	割合（%）
奨学金は利用していない	5	56%
少し満足	2	22%
少し不満	1	11%
とても満足	1	11%
とても不満	0	0%

4-3. アルバイトをしている（していた）方にお伺いします。
学業との両立はいかがでしたか？

項目	回答数	割合（%）
問題なく両立できた	6	67%
一部で両立が難しかった	2	22%
アルバイトはしていない	1	11%
両立はとても難しかった	0	0%

4-4. 専門学校在学中の学費や生活費について、困難に感じることはありましたか？

項目	回答数	割合（%）
あまりなかった	5	56%
まったくなかった	3	33%
とてもあった	1	11%
少しあった	0	0%

4-5. 専門学校に入学後、予想外にかかった費用はありましたか？　（複数回答可）

項目	回答数	割合（%）
特に予想外の費用はなかった	5	56%
教材費が思ったより高かった	3	33%
交通費が思ったより高かった	2	22%
実習・実技の費用が思ったより高かった	0	0%

【Part5】専門学校進学時の困難要因（③心理面）

5-1. 専門学校に入学する際、新しい環境に入ることへの不安はありましたか？

項目	回答数	割合（%）
とてもあった	4	44%
少しあった	3	33%
あまりなかった	1	11%
まったくなかった	1	11%

5-2. 専門学校で相談できる仲間（友人）はいますか？

項目	回答数	割合（%）
いる	7	78%
いない	2	22%

5-3. 専門学校に入学して、同級生との関係で難しさを感じることはありましたか？

項目	回答数	割合（%）
あまりなかった	4	44%
とてもあった	3	33%
少しあった	1	11%
まったくなかった	1	11%

5-4. 通信制高校出身であることを同級生に伝えましたか？

項目	回答数	割合（%）
聞かれれば答えた	5	56%
全く話さなかった	2	22%
積極的に話した	2	22%
できるだけ隠した	0	0%

5-5. 専門学校の先生には、気軽に相談することができますか？

項目	回答数	割合（%）
とても気軽に相談できる	5	56%
少し気軽に相談できる	2	22%
少し相談しにくいと感じる	2	22%
まったく相談できない	0	0%
相談の機会はない	0	0%

5-6. これまでに、自分に自信がない、または他の人と比べて劣っている、と感じたことはありますか？

項目	回答数	割合（%）
時々感じていた	5	56%
いつも感じていた	3	33%
全く感じなかった	1	11%
あまり感じることはなかった	0	0%

5-7. 今の生活の中で、規則正しい生活は送れていますか？

項目	回答数	割合（%）
はい	6	67%
いいえ	3	33%

【Part6】専門学校の総合的な印象・有効だった支援

6-1. あなたが入学前に専門学校に対して持っていた期待は、実際に入学してどのように感じられましたか？

項目	回答数	割合（%）
期待したとおりだった	6	67%
期待以上だった	2	22%
期待以下だった	1	11%

6-2. 専門学校での学びに対する総合的な満足度はいかがですか？

項目	回答数	割合（%）
とても満足している	4	44%
少し満足している	4	44%
少し不満	1	11%
とても不満	0	0%

6-3. 専門学校での生活の中で、通信制高校での経験をどのように活かすことができたと思いますか？（複数回答可）

項目	回答数	割合（%）
自分で学ぶ力（自立学習力）を活かせた	4	44%
人との関わり方・コミュニケーションの経験を活かせた	3	33%
時間の使い方や自己管理の力を活かせた	2	22%
特に活かせたと感じることはなかった	2	22%
通信課題などで身につけた計画性を活かせた	0	0%

6-4. 専門学校が実施する入学前サポートについて、参加して良かった、受けて良かったと思うものをおしえてください。（複数回答可）

項目	回答数	割合（%）
専門学校でのオープンキャンパス・体験講座	9	100%
奨学金制度の個別説明	1	11%
個別相談	1	11%
高校での進路ガイダンス・体験学習	0	0%
入学前教育プログラム	0	0%

6-5. 入学後に「受けて良かった」と思うサポートについて教えてください。（複数回答可）

項目	回答数	割合（%）
特にない	4	44%
奨学金・経済的な支援	3	33%
生活全般の相談（欠席不良、ボランティア活動、アルバイト等）	2	22%
就職サポート・キャリア相談	0	0%
補習・個別の学習指導、学習面のサポート	0	0%
先生、同級生への相談	0	0%
総合支援室（学生相談室）の個別相談	0	0%

6-6. 総合支援室（学生相談室）の個別相談を利用したことはありますか？

項目	回答数	割合（%）
ない	9	100%
ある	0	0%

6-7. 入学前から卒業までの期間で、「あればよかった」「もっと充実していたらよかった」と感じるサポートはありますか？（複数選択可）

項目	回答数	割合（%）
特にない	4	44%
メンタルのケア・カウンセリングの充実	2	22%
在学中の学習面のサポート	1	11%
入学前の進学情報の提供や相談	1	11%
同じ境遇の仲間とのつながり・交流	1	11%
卒業後のフォロー	1	11%
経済面での支援の充実	0	0%
卒業後の進路・キャリアに関するサポート	0	0%

6-8. 専門学校在学時のあなたにとって、最も効果的だったと思うサポートを一つ、教えてください。

項目	回答数	割合（%）
学習面のサポート	3	33%
人間関係のサポート	3	33%
生活面のサポート	1	11%
経済面のサポート	1	11%
特にない	1	11%

【Part7】今後の意向等

7-1. 卒業後（卒業生の方は今後）の希望についておしえてください。

項目	回答数	割合（%）
就職を希望（県内でも県外でも）	4	44%
就職を希望（県内で）	3	33%
現在の職場に継続して勤務したい	1	11%
まだ決まっていない	1	11%

7-2. 地域への愛着はありますか？

項目	回答数	割合（%）
どちらともいえない	3	33%
少し愛着を感じる	3	33%
まったく愛着を感じない	2	22%
あまり愛着を感じない	1	11%
とても強い愛着を感じる	0	0%

インタビュー記録（要約）　①Aさん

1. 概要と専門学校への進学経緯

現在、ホテルブライダル科の１年生。

過去に不登校を経験したが、自らの意思で再び学校へ通い、通信制高校へ進学。高校時代の修学旅行でホテルに宿泊した際、部屋のトラブルをすぐに対応して解決してくれたホテルマンの姿に感動したことで、将来は自分もホテルマンになりたい、という思いが湧き、ホテルマンを目指す決定的なきっかけとなった。この目標を見据え、ホテル関連知識やビジネスマナーを学ぶことを目的として専門学校に進学。

2. 困難と悩みの発生および克服への道のり

Aさんにとって、中学時代の不登校経験と学習面への不安が大きな困難となっていた。

【直面した困難】

①中学時代から不登校に

中学校の入学式を欠席。１週間後に通学するも、すでにできあがっている友人同士の輪に入れないと感じたことや、小学校時代から徐々に勉強についていけなくなり、周囲との学力差を感じていたこともあり、学校生活に魅力を感じず、程なくして不登校になった。不登校中は、家で毎日オンラインゲームをする生活を送っていた。

②学習への苦手意識と不安

学校での教科書に沿った勉強が苦手。勉強に関しては、現在も自発的に学習に取り組むことに若干の困難を抱えている。

【困難を乗り越えた方法と解決】

①「反面教師」による自己覚醒

中学時代に夢中になっていたオンラインゲームの世界で、「酒、タバコ、ギャンブル」に深く依存する大人に出会う。Aさんはその人物を自分に重ね合わせ「学校に行かず、ずっとネットゲームを続ける生活を送ると、将来この人と同じようになるのでは？」という焦りを感じたことをきっかけに、徐々に中学校に通い始め、勉強と向き合うようになった。

②通信制高校への進学と目標設定

通信制高校の存在を知り、自らの意思で選択する。高校生活は部活動（ｅスポーツ）、資格取得（Ｅｘｃｅｌ）、アルバイト、ボランティアなど精力的に活動する。修学旅行をきっかけに、ホテルマンという具体的な夢（ロールモデル）を見つけたことで、自分自身の中で目標が明確になり、実現させるため専門学校への進学を決める。

③学習サポートの活用

専門学校での様々な分野に関する授業や、教員による工夫されたクイズ形式での試協力テストなどを通して、学習や知識習得への向き合い方を改めて知る。今までの「勉強」の概念を取り払えたことで、興味のある分野に関する「新しい知識を習得すること」が新鮮で、面白い、興味のあることに変化した。

④学習機会への意欲

自ら学習と向き合うことへの苦手意識を認識しているため、「専門学校の授業後にも勉強する時間をもっと増やす機会があれば、学力アップにつながる」と積極的に解決策を求めている。さらに、学習に基づいたショート動画など、興味のある形式であれば自発的に学習に取り組む意欲を見せている。

【困難を乗り越えたことによる成長】

Ａさんは、現在の専門学校での何気ない日常「就職して、友人と話し、一緒にごハンを食べる。ことを楽しいと感じている。特にコミュニケーション能力と自己認識の面で成長が見られる。

①高いコミュニケーション能力

中学時代の不登校を乗り越えたＡさんは、専門学校では自ら積極的に周りの同級生に話しかけ、人間関係を構築している。クラスメイトとコミュニケーションや関係性についても「困ったことはない」と述べている。

②将来目標の明確化

過去、学校や勉強から逃げたという反省や、自分を客観視し、将来の道筋を見つめ直した結果、「今のままではいけない」という意識が芽生え、通信制高校へ進学し、そこでホテルマンという明確な目標を設定するにいった。目標が明確になったことで、今現在も前向きに専門学校での就業に取り組んでいる。

3. 自己客観視と課題認識

高校時代のアルバイト経験での自身の態度を振り返り、反省する言葉がみられ、しっかりと自分を俯瞰することができている様子が伺えた。また、高校時代にＥｘｃｅｌ１級の資格試験受験を勧められるも自信がなくチャレンジしなかったとのことだが、今なら前向きに取り組みたい、という前向きな言葉を発する姿勢から、過去の自分より自信がついたことが伺えた。

4. 目指す将来像

自身の人生を変えたホテルマンのように、「焦らず、問題にすぐ対処できる」「お客様の笑顔をキープできるようなホテルマン」を目指したいと明確な目標を語ってくれた。

インタビュー記録（要約）　②Ｂさん

1. 概要と専門学校への進学経緯

現在、ホテルブライダル科の１年生。

通信制高校卒業後は就職を検討していたが、親からの「専門学校で資格を取得した方が良い」という勧め、そして自身の「接客」への関心の２点を主な理由として専門学校への進学を選択した。専門学校では、実践的な知識（例：レストランでのランチやディナー提供の実技試験など）を学び、特にホテル分野への興味を深めている。

2. 困難と悩みの発生および克服への道のり

Ｂさんの過去の大きな困難は、高校時代に直面した人間関係の問題である。それに伴い学校を辞めた経験や、家から出られなくなった経験がある。

【直面した困難】

Ｂさんは高校時代に部活動の関係で寮生活を送っており、24時間同級生や先輩と過ごす環境の中で人間関係の軋轢が生じた。これにより精神的な限界を迎え、学校に行けなくなり、また親に心配をかけたくないという思いから辛い状況を誰にも打ち明けられず、腹痛などの身体的な症状が起こった。

【困難を乗り越えた方法と解決】

①自己認識と意識的な「切り替え」

辛い状況が続いた結果、「今の状態を引きずったままでは部とも関われない」と自ら気づき、「過去の経験や、辛かった気持ちを引きずっていたくない」と強く意識した。この自己認識に基づき、「なるべく気持ちを切り替える努力をして、前向きに変換しよう」という意志を持つことで状況を打破した。

②友人と環境の力

全日制高等学校を辞めた後、同じタイミングで高校を辞めた友人がおり、その友人が積極的に遊びに誘ってくれたことが、再び人と関わるきっかけとなった。

③専門学校でのサポート

専門学校に入学し、担任の先生がマンツーマンで話を聞いてくれる機会を設けてくれたおかげで、先生を信頼することができ、徐々に人間関係への不安が解消された。

④アルバイトでの実践

高校時代から続けているコンビニエンスストアでのアルバイトを通じて、多様な顧客に対応する経験を積んだ。気持ちが沈む事態に遭遇しても、すぐに気持ちを切り替えてリカバーできるようになり、確な気持ちを引きずらない術を身につけることができた。アルバイト先の店長からも勤務態度を評価された。

【困難を乗り越えることによる成長】

Ｂさんは、過去の辛い経験を乗り越えたことで、人間的、社会的に大きく成長したと自己評価し、周囲からも同じ評価を受けている。

①対人能力の向上と不安の解消

最も大きな成長は、人と関われるようになったことである。以前は対面で人と接することが苦手で対人関係に不安があったが、現在はその不安がだいぶ軽くなったと実感している。

②精神的な回復力（レジリエンス）

嫌なことを引きずらずに「切り替える」能力を身につけたことで、感情のコントロールができるようになった。

③経験の価値への肯定

過去の辛い経験を、「若いうちに経験できたことで、社会に出てから大きなダメージを受けずに済む可能性を高めた必要な経験であった」と前向きに捉えることができている。

④実務能力の獲得

コンビニエンスストアでのアルバイトを通じて、様々な仕事で必要なマルチタスク能力を身につけることができた。

インタビュー記録（要約）　③Cさん

1. 概要と専門学校への進学経緯

現在、情報ビジネス学科の１年生。

高校時代は週１回のみ登校する通信制高校に３年間通う。高校卒業時、今までの生活リズムでは社会での就職は難しいと判断し、「生活リズム習慣を作っておいた方がいい。」と考え、専門学校への進学を選択した。情報ビジネス学科では、マーケティングや簿記、ＰＢＬ（課題解決学習：カードゲーム制作など）といった実践的な内容を学んでおり、特に簿記やＰＢＬといった「解ける」「面白い」と感じる授業や学校生活にとても満足している。

2. 困難と悩みの発生および克服への道のり

Ｃさんが過去に直面した主な困難は、中学時代での不登校と、その後の高校時代におけるコミュニケーションの欠如であった。

【直面した困難】

①中学時代の不登校

中学時代は人間関係が原因ではなく、単に学校生活のルーティン（毎日通い、勉強し、部活をすること）自体を疑問に感じ、不登校になる。

②コミュニケーションの孤立

通信制高校では登校が週１回で、クラスもなく、人と接したり会話をしたりする機会が極端に少なく、「心が無になっていた」状態だった。Ｃさん自身は人と話すことが好きな人間であるため、この孤立期間を振り返ると自分にとって、本当に辛い時間だった。専門学校入学前は、毎日の通学や人間関係の構築ができるのかという不安を抱えていた。

【困難を乗り越えた方法と解決】

①アルバイトによる社会参加とリズムの確立

家族以外に誰とも接することや会話をすることがない孤立を打破し、生活のリズムを作るため、通信制高校在学中に友人（中学時代の友人）の紹介で飲食店のアルバイトを開始した。これにより人と接する機会が増え、決まった時間に行動することで生活がかなり安定したと感じている。

②意地と楽しさによる通学の継続

専門学校入学後は、新しく学ぶ簿記やＰＢＬなど、心から「面白い」と感じる授業に出会い、置き遅すことなく授業に参加したい、という気持ちが毎日休まず通学するための大きな心の支えとなっている。また、親が出してくれる学費を無駄にしてはいけない、という意識も芽生え、決意を持って毎日の通学を継続している。

③自発的な関係構築と環境の活用

専門学校では、昼食場所を探している時に声をかけたり、少人数のクラス（16名）で隣の席の人と話したりするなど、自然な交流を通じて友人ができた。これにより高校時代に感じていた「無」の状態は解消され、同世代と交流する大切さや充実感を味わっている。

④計画性と目標設定

周囲の友人が全日制高校を３年で卒業することから、「周りに置いていかれるのが嫌」という気持ちで自身も３年での卒業を目標に設定し、単位取得のためのスケジュール管理を行い、余裕を持って単位を取得した。

【困難を乗り越えることによる成長】

Ｃさんは、過去の困難な時期を乗り越えたことで、現在の学校生活を非常に高い満足度で送っており、精神的・社会的に大きな成長を遂げている。

①生活の安定と幸福感の獲得

不登校や週１回通学の生活から脱却し、現在は「今が一番楽しい」と断言できるほど充実している。気の許せる友人ができたこと、学校生活のリズムが整ってきたこと、そしてアルバイトで給料を得て、人の役に立てている実感がある事も今の生活の原動力となっている。

②対人コミュニケーション能力の回復

孤立していた高校時代から一転し、現在は「人と喋るのが好き」という自身の元来の特性を活かし、友達との何気ない日常的な会話を楽しめるようになり、コミュニケーションの大切さに改めて気づいた。

③積極性と主体性の向上

クラス内での話し合いや課題において、周囲が行動しない時は「自分が手を挙げて行動しなければ」と感じ、責任感と主体性が育まれ、現在の学習面や人間関係の充実にも繋がっている。

④環境への高い評価

Ｃさんは専門学校での経験を「期待以上」「とても満足している」と評価しており、学校生活の充実が伺え、自己肯定感を高めることにも繋がっている。

インタビュー記録（要約）　④Dさん

1. 概要と専門学校への進学経緯

現在、情報ビジネス科の２年生。

すでに自動車関連の営業職として就職が内定しており、来年から働く予定。

Ｄさんはサッカーに打ち込むために全日制から通信制高校へ転入。将来を見据え、パソコンスキルの習得が後の就職で有利になると考えたこと、また、先に入学が決まっていた友達から学校の雰囲気の良さを勧められたことがきっかけとなり専門学校への進学を選択。当初は大学進学も検討していたが、学力面を考慮して断念。最終的に、誰とでも分け隔てなく話せる強みと、車好きということから営業職を選んだ。将来的な目標として、山口県の店舗の中でトップを取りたいという明確なビジョンを持っている。

2. 困難と悩みの発生および克服への道のり

【直面した困難】

①通信制高校での人間関係構築の難しさ

全日制とは異なり自由登校のため、常に教室にいる人が違い、話す機会が少ないことから、人間関係を築くことに困難を感じていた。交流は修学旅行などの行事の時にほぼ限られていた。

②学力面での不安

通信制高校では自分で自由に教科を選べたため、学習内容が偏り（例：数学Ⅱまでしかやっていないなど）、全日制出身の学生が多い専門学校で学力的に付いていけるか不安を感じていた。

③授業形式への適応

高校時代は時間数が決まっておらず、受けた分だけ単位がつく形式だったため、入学当初、専門学校の90分授業に慣れるのに苦労した。

④ 通信制への偏見

全日制の友達から、通信制は「甘え」である、自由な時間があって「ずるい」といったネガティブな言葉を直接的あるいはＬＩＮＥで言われた経験がある。

【困難を乗り越えた方法と解決】

①学力への不安解消

専門分野（パソコン系）では国数英の基礎科目をあまり使用しないため、入学後すぐに学力的な不安は解消された。

②環境への適応

専門学校に入学後は、毎日同じクラスメイトが教室にいる環境になったため、人間関係を構築しやすくなった。初日の登校日で積極的に自分からＬＩＮＥ交換をしてグループを作成するなど、戸惑うことなく新しい生活スタイルに適応し楽しい専門学校生活を送っている。

③挫折の乗り越え

中学時代に大きな大会前に怪我をして、最後の試合に出られなくなるなどの挫折を経験する。その後もケガや故障でサッカー選手になりたいという夢を断念することにも繋がったが、そのような経験から「完璧を目指さない」という考え方や、「うまくいかなかったことを、ずっと引きずっていても何も変わらない」と前向きに切り替える力を身につけた。

【困難を乗り越えたことによる成長】

①高いコミュニケーション能力

幼い頃からサッカーを通じてチームプレイが必要である環境に身を置いてきたことから、コミュニケーションを取ることや意思疎通を図ることが得意と自負している。人見知りすることもなく、自分から積極的に話しかけるタイプで、クラスの中でリーダーシップを取ることを厭わない。持ち前のコミュニケーション能力の高さが、キャリアプランを考える上での軸となった。

②将来目標の明確化

目標達成のために行動を戦略的に選択する力があり、アルバイトを選択する際も、接客力を補うために飲食店で働き、現在は体力的なものを補うため清掃業を選んでいる。選択するすべての行動が、将来の目標を明確化するために繋げるという先を見通す視点を持っている。

③自己客観視と課題認識

目指していたプロサッカー選手への道を諦めた際も、冷静に自身の体格やパフォーマンスを客観し、他の選手と比較することで、これ以上努力を重ねても到達できないことを理解し、別の道へ切り替えた。挫折と感じず、ひとつの経験として糧にする強さを持ち合わせている。専門学校生活では、履歴書の作成など具体的なキャリアサポートが支えになったことや、先を見通し、卒業後の転職サポートなどの社会的な変化に対応したフォローがあれば、安心感につながると提案しており、自分を含め周りの人の状況も考慮に入れた意見があった。

インタビュー記録（要約）　⑤Ｅさん

１．概要と専門学校への進学経緯

ホテルブライダル科を２年前に卒業。

高校時代、人間関係が上手くいかずうつ病を発症。それにより通信制高校へ転入。親の勧めでホテルブライダルを学ぶため専門学校へ進学。新卒で冠婚葬祭業に就職したが、仕事内容や企業体質が合わず、体調を崩し約半年で退職。現在は関西に住み、人材派遣・人材代行業の会社に就職し携帯会社に派遣され、登録業務などを担っている。

2. 困難と悩みの発生および克服への道のり

【直面した困難】

①高校時代

人間関係が上手くいかず、うつ病を発症。全日制高校から同じ学校の通信制高校へ転校する。生活リズムが崩れ昼夜逆転の生活を送る。

②専門学校での生活と交友関係

生活リズムを立て直しつつあったが、気分も沈みがちで登校できない日もあり、卒業までの期間に約３分の１程度学校を欠席。クラスメイトには病気のことを公表しており、そのことで友人との関係性に悩みを抱えながら学校生活を送る。

③離職と病状の悪化

新卒で入った冠婚葬祭業では、慣れない環境や仕事について相談できる相手がいなかったため、軽度の適応障害になり職場に行けなくなる。病気が悪化する前に自らの意思で退職を決断した。

【困難を乗り越えた方法と解決】

①現状打破に向けた行動の実行と達成

打ち込んできたバドミントンを通信制高校でも続けるため、高校教員の父親からの情報提供とサポートで、通信制高校でバドミントン部を立ち上げ活動できるよう粘り強く学校へ交渉、担任の協力を得て、県大会に出場し優勝。全国大会（通信制の部）でもベスト８という結果を残した。

②専門学校への進学と目標設定

親からの勧めがあり、ホテルブライダルを学ぶことに決める。昼夜逆転の生活リズムを立て直すためと、何か将来に繋がるアルバイトを、という親の助言で結婚式場でのアルバイトを開始。専門学校入学までに完全にリズムは戻らなかったものの、持ち前の気合いで何とか生活を立て直し、学校生活を送る。

③担任教諭との関係性の構築

出会った当初から信頼でき、勉強・人間関係・プライベートについて、どんなことでも相談できる担任の存在に上り精神的な手厚いサポートを受けたことが、専門学校を卒業することができたことに繋がったと自身で認識している。

④自己管理能力や客観的視点の成長

自身の体調不良と、その症状を引き起こす原因について、冷静に自己分析しキャリアの方向転換を決断するに至った。その経験を踏まえ今後社会人としてどう自分が歩んでいきたいのかを熟考した結果、親の意向ではなく、自分で意思決定し人生を選択することを決断し、地元を離れ一人県外で新しい一歩を踏み出すに至った。

【困難を乗り越えたことによる成長】

今までは親の期待に応えることを重視し、言われたことに従っての行動し続けた結果、失敗することを恐れて「正しい」と思えることを基準に選択してきた人生だったと内省を深めた。うつ病の経験や就職でのつまずきを経て、自分の人生を自分自身で切り開きたいという強い意志が芽生えた。

①自己決定と行動力の強化

「正しいこと」ではなく、自分が「やりたいか、やりたくないか」を基準に選択し、失敗も経験になると前向きに捉えられるようになった。

②環境の変化への価値

自分の人生を変えたい、という強い意志の芽生えにより、前職を辞めた後、山口の実家から離れ、県外へ単身での引っ越しと転職を決行。この経験により行動力が身についたと感じている。

③明確な目標

現在の会社での昇進を目指し、仕事にやりがいを感じている。自身の辛い経験（人間関係が上手くいかないことによるうつ病発症）を、同じ状況にある誰かの助けになるよう活かしたいという目標を持っている。

インタビュー記録（詳細：例）　Dさん

イ：インタビュアー（①②）　D：Dさん

イ① ： Dさんは今 専門学校の２年生なんですね。

D ： はい。 今２年です。

イ① ： もう就職決まったんですか？

D ： 決まりました。

イ① ： おめでとうございます。

D ： ありがとうございます。

イ① ： 就職先はどういうジャンルのお仕事なんですか？

D ： 車販売です 。トヨペットの営業です。

イ① ： そうなんですね。車が好きなんですか？

D ： 車好きですね。

イ① ： では、あとは就職を待つばかりですね。
今の就職に対する思いはどうですか？

D ： 今のところ、早く働きたいという気持ちが強いですね。

イ① ： では、社会人迎えるにあたって今から色々準備が必要ですね。

D ： はい。

イ① ： 「 実ずはDさんが通信高校を選んだ理由から教えてもらっていいですか？
アンケートには「やりたいことができると思った」という項目を選んで
回答してくださってるんですけども、 やりたいことは何だったんですか？

D ： その当時はサッカーに力を入れていて。クラブとか社会人チームに参加してたので、そっちに力入れたいなと思って。

イ① ： なるほど、サッカーはいつからやっていたんですか？

D ： サッカーは、幼稚園ぐらいから、地元のスポーツ少年団から入って、で、中学とか。

イ① ： 本気でサッカーに全身全霊で打ち込んでいたんですね。

D ： そうですね。

イ① ： 今はサッカーはやっているんですか？

D ： 今はアルバイトとかもあるのであんまりできてないですけど、 一応社会人チームには所属してますね。

イ① ： 学生さんでもその社会人チームに所属できるんですね。

D ： 一応、 18 歳以上だったら。

イ① ： なるほど。 部活までは激しくはないけども、合間を縫ってサッカーを続けている感じなんですね。 だから通信制を選んだんですね。
じゃあその高校に通いながら、サッカーを 一生懸命やっていた感じなんですか？

D ： そうですね。

イ① ： 生活リズムはどんな感じでしたか？

D ： 生活リズムは、早く寝て、早く起きて。通信にも通いながら、ですね。
昼からもサッカーがある時もあったので。

イ① ： では忙しかったですね。

D ： そうですね、 週４日で、練習は１日３時間とかですかね。

イ① ： アンケートの「通信制の時に取り組んでいたもの」もサッカーに取り組んでいたっていうことなんですね。

D ： はい。

イ① ： 通信制高校で「困難に感じたこと、困ったこと」は「人間関係を作ること」の選択肢にチェックしてくださったんですけども、それはどんな感じでしたか？

D ： 全日制と違って、いつも自由登校なので、毎回いる人が違うっていう…
あと話す機会がないっていうのが…
なので、修学旅行とかの行事で自分から話しかけて仲良くなるとか。

イ② ： 修学旅行があるんですね。

D ： そうですね。 修学旅行が １年、２年、３年、でずっとあるんですよ。
毎年あって… ２泊３日で。大阪の方行ったり、長崎の方行ったりとか…。

イ① ： 毎年場所も違うんですか？

D ： 毎年違いますね。

イ② ： 例えば大阪に行ったら何をしました？

D ： 大阪は…そうですね… 大阪はいろんな観光とかが多かったです。

イ① ： ＵＳＪとかも行きました？

D ： ＵＳＪも行きましたね。あとボランティア活動みたいなのにちょっと参加したりとか。

イ① ： では、そういう修学旅行とかのイベントがあると、いろんな人とお話していっていう感じだけど、普段の学校生活では毎回メンバーが違うから、せっかくその修学旅行で仲良くなっても、またいつ会えるかわからないみたいな 状況なんですね。

D ： そうですね。

D ： 対面っていうか、コースがあって、一応進学コースみたいなのに入っていて、その時は対面なんですけど、普段は個人で勉強に取り組むっていう 。スクーリングとして…。

イ① ： 授業の動画などを見たり？

D ： そうですね。 プリントがあって、自分でそのレポートをやって提出するっていうのが通信なんですけど。

イ① ： 学校に行って、レポートを書いて提出して帰ってくる。そういう感じなんですね。

D ： そうですね。

イ① ： なるほど。 確かにそれだと、なかなか話す時間もないですね。
そこから専門学校に入ろうと思ったきっかけは何かあったんですか？

D ： そうですね、一応今がビジネス科なんですけど、今の時代パソコン使えたらかなり有利になるので…そこも考えつつっていうのと、あと友達からの紹介っていうのもあります。先に友達が合格していて、行くことが決まっていて、ここ雰囲気とかもとてもいいかなっていうので…。

イ① ： 誘ってくれたんだ。

D ： はい。

イ① ： では、お友達に進められて、言われたとおり感じがいいな、面白そうだなっていうことで入学を決めたんですね。

D ： そうですね。

イ① ： 「学校説明会」についてみんなが参加して良かったっていう評価なんですけど…どういうところがいいと思いましたか？

D ： そうですね。説明会は、自分の場合は… 今の担任の先生と対面での話だったんです。なので個人の面談になったんですけど、色々、就職のことだったり、教えていただいて。

イ① ： では、卒業したらこういう道筋が見えるっていうのも決め手になった感じなのでしょうか？

D ： はい。

イ① ： ギリギリになったってことは、それまで色々悩んでたということ？
進路について 。

D ： そうですね。 その前に、大学とかもいいなっていうのもあったけど、学力面をみて、大学断念したっていうのもあるんですけど…。

イ① ： そうですか。進学コースに通ってた、って言ってましたよね。色々模索した上で専門学校を選んだんですね。実際入ってみてどうでしたか？

D ： そうですね。みんなが全日制出身だから、学力的な問題とかで不安があったんですけど…。でも、ついていけるので、そこのところは全然大丈夫ですね。

イ① ： 学力に不安があったんですね？

D ： そうですね。 個人で勉強っていうので、先生方から教えてもらうっていうのがなかなかないので。 自分で自由に受ける教科を決めていたので。

イ① ： ああ、 なるほど。では、受けたい教科は 自分で決めて受けてるから、どうしても自分の好みに偏るというか…

D ： ですね。 高校３年とかだったら数Ⅱとかやるじゃないですか。でも自分の場合数Ⅱまでしかやってなくて。そういうので学力面では不安あったんですけど 、パソコン系なので国数英、あまり使わなくて。

イ① ： では入ってすぐその学力に対する不安は解消された感じですか？

D ： はい、解消されました。ただ最初は 90 分授業とかいうのは慣れなかったですね。

イ① ： 座って先生の話を聞くとか？

D ： そうですね。通信制は時間が決まってないんです よ。 受けた分だけ、30 分だったら 30 分がつくみたいな感じ。

イ① ： 時間数をプラスしていく感じなんですね。 今日 30 分、明日 20 分でプラス 50 分みたいな。

イ② ： それは最初、90 分座るのが大変でしたね。

D ： 最初はそうですね。

イ① ： 生活スタイルが、ガラっと変わった感じですね。

D ： そうですね。

イ① ： 実際、毎日同じクラスの人たちと会う事で人間関係はどうでした？

D ： そうですね。 今までと違って、毎日話せるので 、休みの日遊びに誘って遊んだりとかすることもできるので。

イ① ： ああ、そうですね。 やはり関係性を作りやすいですか？

D ： 作りやすいですね。毎日一緒にいるとしゃべるので。２年間一緒なんで。

イ④ ： じゃあDさんは積極自分からも話しかけるタイプ？

D ： そうですね。自分から話しかけることが多いと思います。
最初入学して １回目の学校かな？ その時にもう自分からＬＩＮＥ交換して。

イ① ： そういうのには、ためらいがなく、人見知りして話しかけられないっていうことは 一切なく？

D ： 一切ないですね。 人見知りも全然なくて。

イ① ： ではコミュニケーション取ったり、意思の疎通を図ったりするのが得意なんですね。

D ： 比較的、得意な方だとは思いますね。

イ② ： 仕事にも活かせますね、きっと。

D ： そうですね。 だから営業を選んだっていうのもあるんですけど、人としゃべっておきたいっていうのがあるので。

イ① ： しゃべっておきたいんですね。

D ： そうですね。自分の得意なこと生かしたいなっていうので。

イ① ： すごい！ちゃんとその自分の強みを分かってるんですね。

D ： 昔から人見知りする方じゃなかったので。 自分 の好きな「車」っていうのと得意な「喋り」を活かせるっていうので職を選んだっていうのはありますね。

イ① ： Dさんはすごく自己肯定感が高いというか、 今まで自信がないって感じたことや、人より劣ってることがないっていう回答だったんです！。
そういうのも、全くない？

D ： 全くないですね。 何でも自信ある、みたいな。どっちかといえば、自信過剰って言われるレベルなんです。だから何でもやれば、うまくいくみたいな。失敗しも気にしないし。

イ② ： 失敗って何かありますか？

D ： 飲食店のアルバイトしてた時に、初日に水こぼしたりとかですけど。
その時は少し気にはしましたけど、すぐに立ち直ったんで。

イ② ： どうやって立ち直るんですか？

D ： いや、もう初めてのことだから。失敗してもしょうがないっていう。
次、失敗しなかったらいいかなって。

イ① ： ああ、すごい。 そうやって思えるのはどうしてですか？

D ： どうして？ やっぱり完璧を目指さないっていうのはありますね。

イ① ： なるほど、いいですね。

D ： 完璧な人はいないので。

イ① ： そういう感覚というか、考え方は何歳ぐらいから意識したの？

D ： そうですね。高校１年ぐらいからですかね。 挫折してきたので。
サッカーとかの面で。

イ① ： ちなみに、聞いてもいいならどんな挫折があったか教えてもらえますか？

： そうですね。 大きな大会、県大会とかあるじゃないですか。 その前に怪我して出れなくなったとか。で、復帰したけど、みんなは練習してるからうまくなってて。 自分だけできなくて、スタメンに戻れないとかいう、そういう挫折とかはありましたね。中学３年の最後の大会とか出てないんで。

イ① ： ああ、それは悔しいですね。今までずっと積み上げてきたからこそ、出たかったですね。

D ： 出たかったですね。

イ① ： そういうのって結構引きずったりするじゃないですか？私がもしその立場だったら 、ずっと引きずってる気がするんですよ。それはどういうことで切り替えたり、乗り越えたんですか？

D ： そうですね。サッカーで言うとやはりその後引をずるんですけど、戻るっていうか、もっと上に行くっていうので練習する。常に練習しておくっていうのがそうです。

イ① ： あの時の気持ちはひとまず置いといて、前向いてやっていこうっていうことなんですね。

D ： そうですね。ずっと引きずってもうまくいかない。

イ① ： なるほど。では、サッカーをメインにしたくて、通信を選んでサッカーを頑張ってきたけど、今後プロ選手になろう、とかいうのはもう自分の中で整理がついたってことなんですか？

D ： 自分と 一緒にずっとやってきた人がいるんですけど、その人が大学生で 、今プロ ＪＳに内定が決まってて。そういうのを見ると、まだまだ自分じゃダメだなっていうのがあって。ずっと追いかけてもダメだっていうので。

イ① ： じゃあ、まだ自分はあのレベルには達していないなって思ったってこと？

D ： そうですね。

イ① ： だからサッカーの道でずっと食べていくっていう 1 より は、また別の方向でやっていこうっていう風に切り替えたんですね？

D ： 切り替えましたね、そこは。

D ： それは自分の中で考えて？誰かに相談して？

D ： いや、個人でですね。

イ① ： 周りと比べて見て、冷静に自分の立ち位置を見る、俯瞰する目があるってこと？

D ： ですかね。 自分、ちょっとそこはよくわかんないんですけど。

イ① ： なかなか自分のレベルっていうか、自分が今どの立ち位置にいるのかって見極めるのが難しい気がするんですよ。もっとできるんじゃないかとか、まだまだ若いからもっと頑張れるとか 思わなかった？

D ： その時は思わなかったですね、もう色々怪我もして、なかなかパフォーマンスも上がらないので。そういうのも考えて。あと、プロと普通のアマチュアだと体格差、自分は身長もある方じゃないんで、そういう面でもダメだなっていうのがありましたね。 今は楽しくやれたらいいなっていう、ま、趣味程度ですけど。

イ① ： なるほど。それで今のDさんがいるということですね。

イ② ： 今の目標は何ですか？

D ： 今は営業で、来年からですけど社会人で営業でトップ取りたいっていう、山口県のトヨペット全体でその中でトップ取れるよう頑張りたいというのはありますね。

イ① ： すごい！とれると思います！

D ： そのためにコミュ力とかも、もっとあげていけたらなっていうのはありますね。

イ① ： なるほど。あと、入学後受けて良かったのは「就職サポートやキャリア相談」っていうお答えも頂いてるんですけども、それは何か具体的に覚えてることがありますか？

D ： そうですね、 キャリアサポートでは履歴書の作成などを手伝ってもらって、そこはすごく力になってもらったので。

イ① ： じゃあ、必要な書類の書き方などのサポートをしてもらえてよかったっていうことなんですね。

D ： はい。

イ① ： なるほど。そして「専門学校の生活の中で充実していた良かったこと」が「卒業後の フォロー 」っていうことですけども、今後卒業した後はどんなフォロー をして欲しいですか？

D ： そうですね、自分の場合はトヨペット一択でいこうと思ってるんですけど、 中には転職とかする人もいるじゃないですか。なので、その転職のサポートが積極的にあったらいいなっていうのはあります。

イ② ： それならキャリアサポート室でやっています。 卒業生のフォローも。本人が言ってきてくれないとなかなか難しいんですが …Dさんみたいに、パッと決められる人と、なかなか悩みながら決めて やっぱりダメだった、という方は、向こうから連絡があると、来てもらって、お話を聞いて、どこか違う企業さんと…、というそういうサポートもしてるので…

イ① ： 何年経っても、相談できる場所があるってきくと、気持ちが楽になる感じ？

D ： 安心感のようなものがありますね。 転職っていうのは 、多分今の時代あると思うので。 自分の年代の人って、ひとつの場所でずっと働くって多分ないと思うんですよ。

イ② ： 社会的に、転職するのが普通みたいな感じになってきてるから…

イ① ： 自分のことだけ考えて、ではないんですね。友達の中ではリーダーシップを取るタイプですか？

D ： そうですね。リーダーシップ取るのは好きですね。みんなで今度遊びに行こうとかよく誘ったりがします。

イ① ： そうなんですね。今バイトはしているんですか？

D ： 今、バイトしてますね。体力的なものを補いたいっていうので…。
今は清掃業を。

イ① ： 体力的なことを補いたいからっていう理由で、バイトを探したんですね？

D ： 前は「すき家」で１年半働いていて。その時は、その接客力を高めたいっていうので選びました。

イ① ： そこも計画的に、目的や意図があってのバイト探しなんですね？

D ： はい。ある程度、接客業って忍耐力も必要じゃないですか。それに忙しい時 300 人来るのに、２人で回すとか。

イ① ： 接客は慣れたから、次は体力ってことですね。なるほど。そこも計画的なんですね。
話は変わりますが、入学後すぐに通信生の人たちと、座談会的なことがあってもいいなとか思いますか？ 別にそこは必要ない？

D ： なんか、通信制に通っていたことを隠したいっていう人もいるじゃないですか。だから逆にそういうのはなくていいのかなって。 自分は隠さないんですけど。
でも自分も言われてきたんですけど 、やっぱ全日制の人からすると、通信って、なんか甘さとかってあるじゃないですか。 毎日行かないといけないものなのに、毎日行かないっていうので。 自分も結構たくさん全日制の人たちから、言われたりはしてきたんで。気にはしたかったけど、自分の道を選んでるだけだからっていうので…ま、言われても、そうだねっていうくらいで…。

イ② ： そこで気にしないところも、お強うしいですね。

D ： でも、気にする人も中にはいるんで。自由な時間あっていいよな、というようなことは言われたし。おたみって言うんですか？なんかそういうのは結構言われてきました。

イ② ： 直接そんなことを言われるの？

D ： 直接言われたり、ＬＩＮＥで言われたりとか。お前だけずるいな、みたいな。

イ① ： ずるいな、っていう感じなんですね。好きなことできていいな、って。

D ： でも自分からしたら、全日制選んだのも自分で選んだんだから、って。
ま、言われる筋じゃないとは思うんですけど、気にせず。
自分も最初は全日制なんで。

イ① ： ああ、そっか。途中から通信制で。

D ： 最初、全日制で 。その挫折も色々あって。

イ① ： じゃあ両方の生活を知ってるわけやな。

D　：　全日制のキツさも分かるし、通信制は通信制でまた学業が大変なんで。
自分で何もかもしないといけないから。自分でやらなかったら、進さないし。全日制はとりあえず、学校に行っとけば授業があるから、参加さえしときゃいいっていうのがあるんですけど。

イ①　：　なるほど。それぞれの大変さがあるんですね。
では、あと数ヶ月の学校生活をどんな風に過ごしていきますか？

D　：　そうですね。学べることは学んで、友達と遊べる時は遊んで、学生生活謳歌したいなって思います。

イ①　：　そうですね、ぜひ謳歌してください！